

「会員論著目録（2022・2023・2024）」試行版の公開

2024 年 1 月から 2024 年 12 月までの間に公刊された単行本・論文、及び 2022 年・2023 年の追補分について、会員各位に情報提供を依頼したところ、2024 年 12 月から 2025 年 3 月末までの期間内に、延べ 418 件の情報が寄せられました。ご協力くださった方々に深く御礼申し上げます。

以下、2022・2023・2024 年の試行版データを公開します。分類は、現在「学界展望」で用いられている次の区分に準拠しています。

なお、現在、哲学・文学・語学に歴史部門を加えることを検討中です。また、試行版の作成を通して明らかとなった問題点（集約する情報の範囲、記号や書式の統一等）についても改善する予定です。

哲学	文学	語学
01.総記	01.総記	01.総記
02.先秦	02.先秦	02.音韻
03.秦・漢	03.漢魏晋南北朝	03.文字
04.三国（魏・呉・蜀）・晋・南北朝	04.隋・唐・五代	04.訓詁・訓点・漢学
05.隋・唐・五代	05.宋	05.文法・語彙（古代）
06.宋・金・元	06.金・元・明	06.文法・語彙（近世）
07.明・清	07.清	07.文法・語彙（現代）
08.近現代	08.近現代	08.方言
09.仏教・道教・民間信仰	09.民間文学・習俗	09.言語接触・翻訳など
10.琉球・朝鮮	10.日本漢文学	10.語彙・辞書
11.日本	11.比較文学	11.教育
12.書誌学	12.書誌	12.訳註類
13.その他	13.その他	13.その他

■哲学 01.総記

【単行本】

川合康三、大谷雅夫、黒田真美子、小島毅、後藤昭雄,日本中国＜漢＞文化大事典,明治書院,2024,911pp.
呉震、張東宇,『東亞《家禮》文獻彙編』13冊 共編（〔中国〕呉震・〔日本〕吾妻重二・〔韓国〕張東宇),上海古籍出版社,2024, 第1冊:中国篇①572pp.、第2冊:中国篇②646pp.、第3冊:中国篇③636pp.、第4冊:日本篇①620pp.、第5冊:日本篇②510pp.、第6冊:日本篇③518pp.、第7冊:日本篇④718pp.、第8冊:朝鮮篇①488pp.、第9冊:朝鮮篇②460pp.、第10冊:朝鮮篇③476pp.、第11冊:朝鮮篇④670pp.、第12冊:朝鮮篇⑤696pp.、第13冊:越南篇 608pp.

野間文史,三禮注疏訓讀（抄）,明德出版社,2023

河内利治、洪丕謨、沈培方,書話拾遺——書を学ぶ83のエピソード,東方書店,2023,346pp.

河内利治他10名,〈道〉研究論集,大東文化大学人文科学研究所,2023,255pp.

- 邱振中著、河内利治監訳、浅野天童訳、書法の形態と解釈、白帝社、2023、540pp.
- 水口拓寿、中国倫理思想の考え方、山川出版社、2022
- 中島隆博、中国哲学史——諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで、中央公論新社、2022、363pp.
- 中島隆博、残響の中国哲学——言語と政治（増補新装版）、東京大学出版会、2022、384pp.
- 中島隆博、共生のプラクシス——国家と宗教（増補新装版）、東京大学出版会、2022、372pp.
- 渡邊義浩、「古典中国」における史学と儒教、汲古書院、2022、741pp.
- 渡邊義浩（編）、中国文化の統一性と多様性、汲古書院、2022、544pp.
- 野間文史、五經正義（附二禮疏・二傳疏）引書索引、明德出版社、2022
- 伊東貴之、廖欽彬、山村奨、河合一樹、東アジアにおける哲学の生成と発展——問文化の視点から、法政大学出版局、2022、886pp.
- 水口拓寿（編）、術数学研究の課題と方法、汲古書院、2022
- 野間文史、論語注疏訓讀、明德出版社、2022
- 【論文】
- 伊東貴之、伝統中国の政治思想と日本——古代から近世まで／比較史的・比較思想的考察、武蔵大学総合研究機構、33,2024,pp.127-150
- 伊東貴之、東亜“家礼学”研究的里程標——談《東亜＜家礼＞文献汇编》の学術価値、現代儒学、15,2024
- 中島隆博、哲学の異端——中国哲学と世界哲学、哲学、75,2024,pp.59-72
- 伊東貴之、伝統中国の政治思想と日本——古代から近世まで／比較史的・比較思想的考察、武蔵大学総合研究機構紀要、33,2024,pp.127-150
- 平澤歩、暦、中国/日本〈漢〉文化大事典、明治書院、2024,pp.14-20
- 平澤歩、黄帝、中国/日本〈漢〉文化大事典、明治書院、2024,pp.138-141
- 平澤歩、陰陽五行、中国/日本〈漢〉文化大事典、明治書院、2024,pp.150-156
- 喬秀岩、鄭注孝經經學解、文史、2023(3),2023
- 橋本秀美、異物温存と複式思考、青山国際政経論集、111,2023
- 徐新源、書評：古勝隆一『中国注疏講義 經書の巻』、漢学研究通訊、42(4),2023,pp.59-60
- 中島隆博、世界哲学としての中国哲学、哲学論集、52,2023,pp.1-16
- 齋藤智寛、三浦秀一教授の業績と学風、文化、86(3・4),2023,pp.7-11
- 河内利治、道と書、〈道〉研究論集、大東文化大学人文科学研究所、2023,pp.233-255
- 橋本秀美、葉純芳、被主流遮蔽の儒家經學特質——西學與鄭玄的啟示、國際儒學、2023(3),2023
- 齋藤智寛、矢田尚子、柳原敏明、高橋章則、大木一夫、仁平政人、堀裕、鹿又喜隆、藤澤敦、東北大学文学部百周年記念事業・デジタルミュージアム“歴史を映す名品”、東北大学附属図書館調査研究室年報、10,2023,pp.109-143
- 齋藤智寛、矢田尚子、柳原敏明、高橋章則、大木一夫、仁平政人、堀裕、鹿又喜隆、藤澤敦、西村直子、長岡龍作、杉本欣久、阿部恒之、東北大学文学部百周年記念事業・デジタルミュージアム“歴史を映す名品”、東北大学附属図書館調査研究室年報、10,2023,pp.109-143
- 伊東貴之、毛立平、張小鋼、牛貫烈、礼教的滲透、泛化及其发展——以中国為中心的近世東亜為例、風尚、社会与風雅——十八世紀東西方的共時性、中国社会科学出版社、2023,pp.25-52
- 伊東貴之、「禮教」の滲透・汎化とその展開——中國を中心とする近世東アジアの事例から——、中国思想史研究、43,2022,pp.103-145
- 小島毅、儒教經学における「嫂」、文化交流研究（東京大学文学部次世代人文学開発センター紀

要),35,2022,pp.77-86

池田知久,中国における性三品説の成立と展開——人間本性の平等と不平等をめぐって——,日本鍼灸史学会論文集(日本鍼灸史学会),特別講演号2022(2022年8月発行),2022,pp.65-105

土田健次郎,東亜儒学之基本問題,遼寧大学学报・哲学社会科学版,50,2022,pp.26-33

佐々木聡,中国歴代王朝における天文五行占書の編纂と禁書政策,術数学研究の課題と方法,汲古書院,2022,pp.97-124

小島毅,「文化中国」の再検討,渡邊義浩(編)中国文化の統一性と多様性,汲古書院,2022,pp.55-72

■哲学 02.先秦

【単行本】

向井哲夫,『鬼谷子』等中国古代文献研究,清風堂書店,2024

大場一央,武器としての中国思想,東洋経済新報社,2023,216pp.

土田健次郎,論語(ちくま学芸文庫),筑摩書房,2023,727pp.

渡邊義浩・関俊史,全譯魏武帝註孫子,汲古書院,2023,236pp.

陳致著・湯淺邦弘監訳・湯城吉信・古賀芳枝・草野友子・中村未来訳,『詩経』の形成—儀礼化から世俗化へ—,東方書店,2023,464pp.

陳致著・湯淺邦弘・湯城吉信・古賀芳枝・草野友子・中村未来訳,『詩経』の形成:儀礼化から世俗化へ,東方書店,2023,464pp.

宇野茂彦,諸子思想史雑識,研文社,2022,472pp.

草野友子,中国新出土文献の思想史的研究—故事・教訓書を中心として—,汲古書院,2022,514pp.

池田知久,郭店楚簡『老子』新研究(曹峰・孫佩霞訳),江蘇人民出版社、2022年5月発行,2022,530pp.

渡邊義浩,孫子「兵法の真髓」を読む,中公新書,2022,296pp.

【論文】

末永高康,清華簡『大夫食礼』初探,中国出土資料研究,28,2024,pp.1-19

村山敬三,『論語』に載せられた誰のものか分からない言葉,斯文,139,2024,pp.67-82

趙珊,包山卜筮祭禱簡における「凶攻解」についての再検討,日本中國學會報,76,2024,pp.3-14

趙珊,天星觀卜筮祭禱簡における鬼神信仰,中国哲学,51,2024,pp.1-44

趙珊,包山卜筮祭禱簡における鬼神信仰,研究論集,23,2024,pp.211-234

趙珊,「攻」字再考—以卜筮祭禱簡為中心,第四屆文字學青年學者暨研究生論文研討會論文集,,2024,pp.205-218

吉永慎二郎,荀子における性内の心と性外の心,集刊東洋学,130,2024,pp.1-22

渋谷由紀,『荀子』性惡説の理由—一人の「性」と社会—,中央学院大学現代教養論叢,7(1),2024,pp.85-110

西晋一郎著・工藤卓司訳,《禮記》中所見禮的意義,經學研究,7,2024,pp.301-316

井上了,西周の三川と河南の三川と,中国研究集刊,69,2023,pp.253-266

項依然,孔子关于仁的体认与践履思想——围绕身、心、性展开的讨论,愛知論叢,114,2023,pp.53-75

渋谷由紀,「荀子」における「情」と「心」,中央学院大学現代教養論叢,5(2),2023,pp.25-48

大野圭介,『山海經』の書名について——「山海」を中心に——,富山大学人文科学研究,79,2023,pp.230-209

中村未来,清華簡『心是謂中』の文献的特質について,中国研究集刊,69,2023,pp.207-217

- 中島隆博,『論語』を発見する 第一講 どのように学ぶのか,未来哲学,5,2023,pp.327-360
- 中島隆博,『論語』を発見する 第二講 仁とは何か,未来哲学,6,2023,pp.268-292
- 渡邊義浩,王者の兵と兵法の理念化—『荀子』議兵篇と『淮南子』兵略訓,東洋の思想と宗教,40,2023,pp.22-38
- 末永高康,喪大記攷,東洋古典学研究,55,2023,pp.17-36
- 吾妻重二,馬鬣封について——儒式墓の一例,東アジアの思想・芸術と文化交渉(二階堂善弘編,関西大学東西学術研究所研究叢書第13号),関西大学東西学術研究所,2023,pp.1-43
- 井上了,『孝経』各章の字数に関する試論,集刊東洋学,126,2022,pp.103-116
- 吉田勉,『春秋穀梁伝』の「非礼」と「非正」,釧路論集,54,2022,pp.1-9
- 渋谷由紀,『韓非子』五蠹篇に見られる世論の誘導について,中央学院大学現代教養論叢,4(2),2022,pp.23-47
- 水野卓,『春秋』の君主記載法—歴史記録の「主観」的側面に注目して—,資料学の方法を探る,21,2022,pp.47-57
- 渡邊義浩,『墨子』の非攻と『孟子』の義戦,RILASJOURNAL,10,2022,pp.右 65-71
- 渡邊義浩,呉起・孫臏の兵法と儒家,東洋研究,224,2022,pp.1-24
- 末永高康,喪服の変除についての一考察,東洋古典学研究,53,2022,pp.31-60
- 末永高康,親族の喪が重複した場合について,広島大学文学部論集,82,2022,pp.1-22

■哲学 03.秦・漢

【単行本】

- 渡邊義浩,横山光輝で読む「項羽と劉邦」,潮出版社,2023,180pp.
- 平澤歩,漢代經学に於ける五行説の変遷,汲古書院,2022,384pp.
- 池田知久、李承律,馬王堆出土文献訳注叢書 易[下] 二三子問篇・繫辭篇・衷篇・要篇・繆和篇・昭力篇(2022年10月発行),東方書店,2022,521pp.
- 池田知久、李承律,馬王堆出土文献訳注叢書 易[上] 六十四卦,東方書店(2022年10月発行),2022,359pp.
- 范曄著・渡邊義浩訳,後漢書 本紀[一]—劉宋・范曄(著)、唐・李賢(注),早稲田大学出版部,2022,368pp.

【論文】

- 金兌垠,『管子』의 道家的 身體論과 法家的 體系 - 心性修養論과 醫學史에서의 文獻的 位置에 관한 연구 -, 의철학연구 Philosophy of Medicine,38,2024,pp.77-108
- 末永高康,漢初の四分曆について,広島大学文学部論集,84,2024,pp.1-22
- 工藤卓司,『賈誼新書』譯註稿(九) 宗首,東洋古典学研究,57,2024,pp.55-84
- 工藤卓司,『賈誼新書』譯註稿(十) 數寧(1),東洋古典学研究,58,2024,pp.53-74
- 김승래, 김태은, 정세권, 조민하, 박성호, 이동규, 최성운, 조태구,中國醫學에서의 ‘心’ 修養과 現代東西醫學의 心理治療,人文學으로 비추어보는 醫療發展의 裏面,도서출판 모시는 사람들,2024,pp.51-78
- 井上了,西周の三川と河南の三川と,中国研究集刊,69,2023,pp.253-266
- 吉田勉,王符『潜夫論』の性三品説,中国哲学,50,2023,pp.31-54
- 金兌垠,無爲思想의 應用과 自然治癒力의 醫術 - 『老子』・『莊子』・『淮南子』・『黃帝內經』,의철학연구(醫哲學研究),35,2023,pp.45-106
- 工藤卓司,『賈誼新書』「德の六理」説とその政治思想上の意義,中國思想史研究,44,2023,pp.65-92

工藤卓司,『賈誼新書』譯註稿(八)過秦下(5),東洋古典學研究,56,2023,pp.63-94
 工藤卓司,『賈誼新書』譯註稿(七)過秦下(4),東洋古典學研究,55,2023,pp.51-76
 渡邊義浩,「古典中国」的成立—以喪服礼的展開為例,成大歷史學報,64,2023,pp.1-21
 有馬卓也,予防医学から年中行事へ—『淮南萬畢術』をめぐって—,九州中国学会報,61,2023,pp.16-30
 石井真美子、村田進、山内貴,『銀雀山漢墓竹簡〔貳〕』訳注(十四),学林,76,2023,pp.207-225
 石井真美子、村田進、山内貴,『銀雀山漢墓竹簡〔貳〕』訳注(十五),学林,77,2023,pp.64-99
 李澤厚・劉綱紀著、河内利治監訳、梁開印・村田萌・李松樺・山田天人・陶坤訳注,漢代書論における美学思想 第三節訳注,書道學論集,20,2023,pp.9-15
 許曉璐,『列仙伝』の「服藥」と「服丹」について,学林,74,2022,pp.1-65
 許曉璐,『列仙伝』の服藥を推奨する理由,学林,40周年記念号,2022,pp.86-137
 金兌垠,中国古代における天の觀念と医学思想の形成,医哲学研究,32,2022,pp.3-50
 古橋紀宏,漢魏における「帝魁」伝説,香川大学国文研究,47,2022,pp.45-75
 工藤卓司,『賈誼新書』譯註稿(五)過秦下(2),東洋古典學研究,53,2022,pp.109-131
 工藤卓司,『賈誼新書』譯註稿(六)過秦下(3),東洋古典學研究,54,2022,pp.45-59
 市村俊太郎,王莽「自本」考,名古屋大学東洋史研究報告,46,2022,pp.25-52
 市村俊太郎,『潜夫論』志氏姓篇考,中國哲學,49,2022,pp.23-56
 池田知久,『淮南子』の目的と構成——要略篇における道德と人事との葛藤——,日本鍼灸史学会論文集(日本鍼灸史学会),特別講演号 2022(2022年8月発行),2022,pp.43-64
 藤田衛,現行本『太玄経』范望注が許昂本であることの証明,東洋古典學研究,53,2022,pp.19-29
 南部英彦,班固における处世と著作,山口大学教育学部研究論叢,71,2022,pp.11-20

■哲学 04.三国(魏・呉・蜀)・晋・南北朝

【単行本】

渡邊義浩,三国志が好き!,岩波書店,2023,113pp.
 渡邊義浩・仙石知子,全譯三國志 魏書(二),汲古書院,2023,476pp.
 渡邊義浩,横山光輝で読む三国志,潮出版社,2022,402pp.
 李蘇書,晉唐道教の展開と三教交渉,汲古書院,2022,546pp.
 渡邊義浩、高橋康浩,全譯三國志 呉書(一),汲古書院,2022,621pp.

【論文】

春本秀雄,「三武一宗の法難」の称谓について,大正大學研究紀要,109,2024
 影山輝國,根本武夷『論語集解義疏』における文字改変—特に三か所の妄改について,國學院雜誌,125(12),2024,pp.20-33
 高田宗平,「沈疴自哀文」と漢籍—『孫子算経』受容試論—,万葉古代学研究年報,22,2024,pp.176(39)-163(52)
 多田伊織,淡と痰と澹—古代インド医学と中国医学の交渉—,古代文化,75(2),2023,pp.46-54
 吉岡佑馬,『講周易疏論家義記』初探—体用・境智および感應思想の検討—,九州中国学会報,61,2023,pp.31-45
 宮澤正順,陶弘景と慧思の内丹外丹に就いて,蓮花寺仏教研究所紀要,16,2023
 佐々木聡,「初期道教經典に見える鬼神観再考:〈発病占〉と暦日の冥官の關係に着目して」,東方宗教,141,2023,pp.1-20

春本秀雄,北魏廃仏研究について——CNKIの論文を踏まえて——,大正大学研究紀要,108,2023,pp.1-22
 村田みお,Numinosity and Image in Treatises about Landscape Painting of the Six Dynasties: With a Focus on Tsung Ping and Wang Wei,ACTA ASIATICA Bulletin of the Institute of Eastern Culture,125,2023,pp.83-99
 渡邊義浩,曹操の軍事思想—魏武注『孫子』を中心として,東洋文化研究所紀要,182,2023,pp.25-63
 渡邊義浩,「八陣」の伝承,六朝学会報,24,2023,pp.1-12
 渡邊義浩,「八陣」の行方,三国志研究,18,2023,pp.1-28
 渡邊義浩,諸葛亮の軍事思想,大上正美先生傘寿記念 三国志論集,三国志学会,2023,pp.1-28
 春本秀雄,図讖と北魏の廃仏について ——李弘と劉潔・蓋呉の図讖禍——,大正大学研究紀要,107,2022,pp.23-43
 渡邊義浩,魏武注『孫子』と曹操の戦法,多元文化,11,2022,pp.1-27
 中島隆博,王弼再考——否定神学を超えて,中国文化の統一性と多様性,汲古書院,2022,pp.325-344
 渡邊義浩,『三國志』東夷傳の思想構造,纏向学の最前線—桜井市纏向学研究センター設立10周年記念論集,桜井市纏向学センター,2022,pp.641-650

■哲学 05.隋・唐・五代

【単行本】

野間文史,三禮注疏訓讀(抄),明德出版社,2023

【論文】

吉岡佑馬,唐玄宗『老子注疏』再考,九州中国学会報,62,2024,pp.16-30
 春本秀雄,「三武一宗の法難」の称谓について,大正大学研究紀要,109,2024
 宮澤正順,白居易と道林禪師との問答と道教,蓮花寺佛教研究所紀要,17,2024,pp.101-128
 路勝楠,元弘相傳本『五行大義』本文所引『說文解字』考,中国哲学,51,2024,pp.115-138
 村田みお,慧詳撰『弘贊法華傳』譯注稿 卷二・翻譯第二(前半),Journal of International Studies,9,2024,pp.57-105
 齋藤智寛,唐五代仏教における奇跡の唯識的解釈について—『続高僧伝』および『法苑珠林』の釈道英伝を中心に—,日本古写経研究所研究紀要,9,2024,pp.1-12
 齋藤智寛,「眉鬚墮落」から「眉毛を惜しまず」へ—疾病形象から見た中国中世仏教—,集刊東洋学,132,2024,pp.80-94
 野間文史,廣島大学図書館蔵舊鈔本周易正義攷,群經單疏古鈔本叢刊周易正義,上海古籍出版社,2024,第三冊解題校理研究 pp.9-64
 池田知久,『寒山詩』に現れた性三品説,斯文,138,2023
 吉岡佑馬,敦煌遺書佚名『老子道德經義疏』初探—華嚴教学の影響および成立背景の検討—,日本中国学会報,75,2023,pp.91-105
 宮澤正順,父の恩は山・母の恩は海—『父母恩重經』を読む,科学と仏教思想(埼玉工業大学先端科学研究所), (2022), 2023
 齋藤智寛,天人口授の語るもの—『律相感通伝』と道宣最晩年の華夷観念—,集刊東洋学,129,2023,pp.21-40
 吉岡佑馬,儒家義疏の科段説について—その発生と終焉,東洋古典学研究,53,2022,pp.1-17
 酒井規史,呉越国の道教信仰—投龍簡と聖地のネットワーク—,アジア遊学,274,2022,pp.116-130

谷口高志,白居易・元稹の祝文とその周辺——唐代の祝文系作品における地方官と神霊・怪異(上)——,九州地区国立大学教育系・文系研究論文集,9(1),2022,pp.1-31
渡邊義浩,劉知幾の史学思想,東洋文化研究所紀要,180,2022,pp.133-160
副島一郎、東英寿、久保山哲二、宮原哲浩、山本嘉孝、合山林太郎、浅見洋二、内山精也,柳宗元の政治論と『管子』復活,唐宋八大家研究,中国書店,2022,pp.102-159

■哲学 06.宋・金・元

【単行本】

陳佑真,三蘇蜀学の研究——北宋士大夫による儒家經典解釈の展開,京都大学学術出版会,2024,356pp.
山際明利,張載思想研究:宋明理学の中の「大虚」説,北海道大学出版会,2024,328pp.
大場一央,武器としての中国思想,東洋経済新報社,2023,216pp.
橋本秀美、葉純芳,朱門礼書考(附:鄭注礼記補疏 曲礼・檀弓),すずさわ書店,2023
山田俊,金朝道家道教の諸相,汲古書院,2022,750pp.
野間文史,論語注疏訓讀,明德出版社,2022

【論文】

高橋あやの,南宋『中興四朝国史』天文志の特徴—『文献通考』象緯考を手掛かりとして,東洋研究,231,2024,pp.1-31
青木洋司,王應麟『困學紀聞』初探—『尚書』態度の手法を中心として,國學院中國學會報,70,2024,pp.53-71
山田俊,宋元道家思想と『孟子』「四十不動心」句,熊本県立大学共通教育センター紀要,3,2024,pp.1-20
山田俊,南宋永嘉學的諸子觀念,諸子学刊,28,2024,pp.253-267
山田俊,『玄天上帝説父母恩重經』を巡る諸問題--「始相」の語を中心に--,熊本県立大学大学院文学研究科論集,17,2024,pp.1-22
梶田祥嗣,王学系老莊注における「孟子」思想探索—王安石・王雱・林自を中心に—,流経法学,24(1),2024,pp.1-40
間柄拓也,楊時「格物」説に於ける内面主義的思想傾向の実態について,九州中國學會報,62,2024,pp.46-60
史甄陶,「朴文鎬의 朱熹 『詩經』 ‘興’論의 수용과 개조에 대한 재탐구(再探朴文鎬對朱熹《詩經》「興」論的接受與改造)」,「藏書閣」,51,2024,pp.122-156
史甄陶,許謙《詩集傳名物鈔》的「興」論特點,現代哲學,3,2024,pp.146-154
史甄陶,論朴文鎬對孔、孟《詩》教的詮釋,(韓國)中國語文學論集,144,2024,pp.395-415
吾妻重二,朱子学再考——「分」の思想をめぐって,東アジア文化交渉研究,17,2024,pp.171-203
伊東貴之,東亜“家礼学”研究的新起点——談《東亜<家礼>文献汇编》的學術價值,現代儒学,15,2024,pp.265-278
謝良佐著・原信太郎アレシャンドレ訳,『上蔡語録』卷上訳注(三),論叢アジアの文化と思想,32,2024,pp.56-88
吾妻重二,朱子学与东亚书院、学塾的传统——兼论日本的学规,切磋(甲辰集),四川大学出版社,2024,pp.3-23
松下道信,頓悟と金丹禪宗:禪宗・全真教・内丹道の目指すところ,ともに成り行く道,ともに花する世界——東アジアから考える Human Co-becoming と Human Co-flowering,東京大学東アジア藝文書

院,2024,pp.21-35

恩田裕正,『朱子語類』卷二十一訳注(六),汲古,83,2023,pp.30-38

恩田裕正,『朱子語類』卷二十一訳注(七),汲古,84,2023,pp.45-52

恩田裕正,『朱子語類』卷九「論知行」篇訳注(四・完) 65条～88条,中国哲学研究,33,2023,pp.78-95

宮澤正順,王日休と王氏神仙伝に就いて,仏教文化研究,68,2023

原信太郎アレシャンドレ,『上蔡語録』卷上訳注(二),論叢 アジアの文化と思想,31,2023,pp.66-93

吾妻重二,朱子学再考——「分」の思想をめぐって(講演録),國學院大中國學會報,69,2023,pp.1-15

山際明利,『儀禮經傳通解』の「學記」解,中國哲學,50,2023,pp.143-170

山本健太郎,宋元時代の『尚書』学における武王伐紂期に関する編年考証,中国哲学研究,33,2023

市來津由彦,郭[書評] 斉・尹波編注『朱熹文集編年評注』をひもとく,東洋古典学研究,55,2023,pp.109-127

市來津由彦,人の學を爲す所以は心と理とのみ—朱熹『大學或問』における「理」の探究,日本中國學會報,75,2023,pp.121-136

松野敏之,張九成『孟子伝』考察——聖賢の用心と『大学』八条目——,東洋の思想と宗教,40,2023,pp.56-73

中嶋諒,王応麟と浙東陸学,明海大学外国語学部論集,35,2023,pp.115-124

日比野晋也,王道淵の内丹説,東アジア文化交渉研究,16,2023,pp.241-254

中嶋諒,南宋浙東陸学の衰滅—黄震の陸九淵評価をめぐって,宋元明士大夫と文化変容(宋代史研究会研究報告第12集),汲古書院,2023,pp.199-225

湯 青妹,稱國以殺/稱人以殺:論蘇轍《春秋集解》對書「殺」的解釋及其思想意義,《大雅當第二屆海峽兩岸《左傳》學高端論壇論文選集,萬卷樓,2023,pp.387-417

原信太郎アレシャンドレ、渡邊賢、志村敦弘,『朱子語類』卷四十四訳注(五),中国哲学研究,33,2023,pp.96-158

志村敦弘、中嶋諒,『朱子語類』卷四十四訳注(四),論叢アジアの文化と思想,31,2023,pp.95-164

黎靖徳編・市來津由彦、望月勇希、大森幹太訳,『朱子語類』卷九十五「程子之書一」訳注稿(十一),東洋古典学研究,55,2023,pp.77-97

伊東貴之,書評:松野敏之著『朱熹『小学』研究』(汲古書院),新しい漢字漢文教育,73,2022,pp.130-131

恩田裕正,『朱子語類』卷九「論知行」篇訳注(三) 53条～64条,中国哲学研究,32,2022,pp.72-86

原信太郎アレシャンドレ,『上蔡語録』卷上訳注(一),論叢 アジアの文化と思想,30,2022,pp.94-127

山田俊,『老子』注釈史に於ける『文子』-『四子古道集解』補論-,熊本県立大学共通教育センター紀要,1,2022,pp.100-114

山田俊,中国近世思想史に於ける司馬光、『法言』、『老子』一性・質・学・諸子を中心に-,熊本県立大学文学部紀要,28,2022,pp.91-114

酒井規史,宋代の道観—茅山を中心に-,アジア遊学,277,2022,pp.185-197

大野裕司,中国現存最古の伝世帙日書『彈冠必用集』について,呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望(アジア遊学),278,2022,pp.248-268

中嶋諒,陸九齡の思想について—『復齋先生文集』の佚文を手がかりに,明海大学外国語学部論集,34,2022,pp.101-111

陳佑真,蘇轍『孟子解』に見るその歴史思想,東洋史研究,81(3),2022,pp.100-133

土田健次郎,儒教の思想史研究と思想分析—朱子学を中心に-,日本儒教学会報,6,2022,pp.1-19

伊東貴之、恩田裕正、林文孝、松下道信、『朱子語類』卷四「論人物之性氣質之性」篇訳注(三) 37条～41条,中国哲学研究,32,2022,pp.87-101

中嶋諒、福谷彬、『陳亮集・増訂本』抄訳(四):「延對」訳注(2),論叢アジアの文化と思想,30,2022,pp.128-159

白井順、尹波、郭齐、朱熹文作年考舉隅,宋代文化研究,2021,2022,pp.170-209

黎靖徳編・市來津由彦、望月勇希、『朱子語類』卷九十五「程子之書 一」訳注稿(九),東洋古典学研究,53,2022,pp.133-149

黎靖徳編・市來津由彦、望月勇希、大森幹太訳、『朱子語類』卷九十五「程子之書 一」訳注稿(十),東洋古典学研究,54,2022,pp.83-100

■哲学 07.明・清

【単行本】

野間文史,顧炎武と平賀中南の春秋學,明德出版社,2024,239pp.

大場一央,武器としての中国思想,東洋経済新報社,2023,216pp.

鶴成久章,明代儒教思想の研究—陽明学・科举・書院,研文出版,2023,784pp.

野間文史,清朝初期の尚書研究 顧炎武『日知録』と閻若璩『尚書古文疏證』,明德出版社,2023

野間文史,清朝の毛詩研究 馬瑞辰『毛詩傳箋通釋』と胡承珙・陳奐・王引之,明德出版社,2023

小路口 聡 著,王龍溪の良知心学——「生機」論という視座,研文出版,2023

無名氏著 永塚憲治訳,『素女妙論』(京大人文研科学史資料叢書 10),臨川書店,2023,306pp.

【論文】

永富青地,『王陽明先生経説弟子記』と胡泉の陽明学研究,東洋文化研究所紀要,186,2024,pp.(1)-(62)

薄井俊二,「敘霞客遊記」の地貌語彙試探—山峯篇—,中国文化,82,2024,pp.18-30

薄井俊二,「徐霞客遊記」の地貌語彙試探(その2)—水文語彙、他,埼玉大学国語教育論叢,27,2024,pp.32-53

顧 嘉晨,「異域道行」を望む遺老—張斐の華夷論について—,日本儒教学会報,8,2024,pp.43-58

荒木龍太郎,陽明門下王龍溪の良知現成論と頓悟漸修論の考察—王龍溪・張陽和・孟我疆・鄒南皋を軸にして—,活水論文集,67,2024,pp.215-231

湯城吉信,『点石齋画報』に見える科举関連記事—その四「科举の不正—本籍詐称、カンニング」—,大東史学,6,2024,pp.79-92

志村敦弘,王守仁「万物一体の仁」思想の原点—その戦場経験と心の「同」—,日本儒教学会報,8,2024,pp.27-42

吾妻重二,日本にもたらされた四庫全書—内藤湖南文庫を中心に,杏雨,27,2024,pp.97-122

伊東貴之,伝統中国の政治思想と日本—古代から近世まで/比較史的・比較思想的考察,武蔵大学総合研究機構紀要,33,2024,pp.127-150

伊東貴之,東亜“家礼学”研究的新起点—談《東亜<家礼>文献汇编》の学術価値,現代儒学,15,2024,pp.265-278

陽明後学会語研究会,韓夢鵬『新安理學先覺會言』訳注 其の四,白山中国学,30,2024,pp.1-28

陽明後学会語研究会,韓夢鵬『新安理學先覺會言』訳注 其の五,白山中国学,30,2024,pp.29-42

陽明後学会語研究会,韓夢鵬『新安理學先覺會言』訳注 其の六,東洋古典学研究,58,2024,pp.113-131

陳捷,服部宇之吉『北馬録』解題・翻刻,東洋文化研究所紀要,182,2023,pp.268(63)-230(101)

湯城吉信,『点石齋画報』に見える科挙関連記事—その三「科挙の不正—替え玉受験」,大東史学,5,2023,pp.87-98

湯城吉信,大東文化大学文学部歴史文化学科蔵『四書蒙引』について—併せて古籍の管理・運用のあり方を問う,大東史学,5,2023,pp.23-47

永塚憲治,『艶本房術龍之巻』について:『素女妙論』の江戸中後期の流通と受容について,医譚,118,2023,pp.11077-11086

永富青地,『薛王二先生教言』について—併せて同書所収の佚文に及ぶ—,陽明学,33,2023,pp.1-21

荒木龍太郎,明末清初における王心齋格物説解釈の変遷—一本末格物説の観点から—,九州中国学会報,61,2023,pp.61-75

佐々木聡,「光緒丁酉年郭洪興抄発病占書とその占辞に見える鬼神」,『古代文化』,75(2),2023,pp.34-45

森由利亜,関一得『呂祖師三尼醫世説述』の形成:湖州周辺の呂祖扶乩信仰を利用した「龍門正宗」正統化,早稲田大学大学院文学研究科紀要,68,2023,pp.13-29

竹中淳,プレマールの宋学理解—『中国の一神教に関する書簡』を参考に一,中国文化,81,2023,pp.59-71

鶴成久章,湛若水と陽明後学—陽明学との「大同」に活路を求めた甘泉学—,東洋古典学研究,56,2023,pp.31-50

土田健次郎,王守仁の知行合一論,東洋の思想と宗教,40,2023,pp.1-21

湯城吉信,大東文化大学文学部歴史文化学科蔵『四書蒙引』について—併せて古籍の管理・運用のあり方を問う,大東史学,5,2023,pp.23-47

湯城吉信,『点石齋画報』に見える科挙関連記事—その三「科挙の不正—替え玉受験」,大東史学,5,2023,pp.87-98

薄井俊二,埼玉大学図書館蔵『徐霞客』関連文献目録(7),埼玉大学紀要(教育学部),72(1),2023,pp.195-224

薄井俊二,徐霞客とその遊記,埼玉大学国語教育論叢,26,2023,pp.7-20

薄井俊二,徐霞客遊記の基礎的研究(九)—事類篇・洞(その7)、全行程(その8),埼玉大学紀要(教育学部),72(1),2023,pp.175-193

薄井俊二、権田舜一,徐霞客遊記訳注 散文篇(二)—“山中逸趣跋”,埼玉大学国語教育論叢,26,2023,pp.98-116

陽明後学会語研究会,韓夢鵬『新安理學先覺會言』訳注 其の二,白山中国学,29,2023,pp.21-40

陽明後学会語研究会,韓夢鵬『新安理學先覺會言』訳注 其の三,白山中国学,29,2023,pp.41-61

伊東貴之、毛立平、張小鋼、牛貫烈,礼教的滲透、泛化及其发展——以中国為中心的近世東亜為例,風尚,社会与風雅——十八世紀東西方的共時性,中国社会科学出版社,2023,pp.25-52

呉震著・早坂俊廣訳,陽明後学の研究—回顧と展望,信州大学人文科学論集,11(1),2023,pp.1-11

湯城吉信,『点石齋画報』に見える科挙関連記事—その二「科挙の厳しさ」,大東史学,4,2022,pp.81-92

利瑪竇著・安部力訳,マテオ・リッチ書簡集(『利瑪竇書信集』)訳注稿(四),北九州工業高等専門学校研究報告,55,2022,pp.59-66

伊東貴之,「言語」の壁／「言語」の夢、孤絶と友愛(書評:阿部亘著『李贄—明末<異端>の言語世界』),図書新聞,3549,2022

永塚憲治,房中術に使われる生薬とその特徴:『素女妙論』の春薬を中心に,東方宗教,139,2022,pp.52-74

永富青地,思想史研究における文献学の有用性について—『朱子晩年定論』を一例として—,東洋の思想

と宗教,39,2022,pp.1-18

永富青地,山梨県立図書館蔵『薛王二先生教言』について,汲古,82,2022,pp.25-30・24

夏 雨,羅祖の伝説における一考察 —「羅祖退番兵」を中心として,日中言語文化,15,2022

吉田勉,『春秋穀梁伝』の「非礼」と「非正」,釧路論集,54,2022,pp.1-9

久米晋平,明儒劉元卿の〈学〉について,陽明学,32,2022,pp.71-95

顧嘉晨,孤臣：もう一つの王夫之像を読み解く,中国哲学研究,32,2022,pp.28-71

顧嘉晨,王夫之の遺民像について,中国：社会と文化,37,2022,pp.113-130

荒木龍太郎,万暦期思潮における羅近溪の「本末格物説」の位置—現成良知の諸相の観点から—,活水論文集,65,2022,pp.191-205

紺野達也,蔡大鼎『漏刻樓集』序譯注稿,神戸外大論叢,75(2),2022,pp.103-133

志村敦弘,聖人の行いは初めより人情に遠からず——王守仁の聖人像,日本儒教学会報,6,2022,pp.51-65

早坂俊廣,邵廷采と全祖望（上）,信州大学人文科学論集,9(2),2022,pp.21-41

早坂俊廣,邵廷采と全祖望（下）,信州大学人文科学論集,10(1),2022,pp.1-27

鶴成久章,王畿の「白鹿洞続講」について,陽明学,32,2022,pp.1-28

白井順,朱吾弼小論—朱熹末裔の出版活動の背景,東洋思想文化,9,2022,pp.1-41

薄井俊二,埼玉大学図書館蔵『徐霞客』関連文献目録（5）,埼玉大学紀要（教育学部,71(1),2022,pp.263-291

薄井俊二,梁啓超が見いだした潘耒「徐霞客遊記序」と李慈銘の「越縕堂読書記」について—清人の徐霞客評（一）,中国文化,80,2022,pp.81-93

伊東貴之,経世学の展開と考証学の隆盛——明末清初期から清代の学術と思想,アジア人物史・第7巻 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ〔16～18世紀〕,集英社,2022,pp.600-669

伊東貴之,明清思想與禮教——明清交替與東亞的思想世界,文化詮釋與諸種傳統之交渉,臺灣・國立中央研究院・中國文哲研究所,2022,pp.51-70

薄井俊二,埼玉大学図書館蔵『徐霞客』関連文献目録（6）,埼玉大学紀要（教育学部,71(2),2022,pp.417-433

■哲学 08.近現代

【単行本】

菅野智明,中国書学と近代知,汲古書院,2024,700pp.

黄進興著・工藤卓司訳,義理学から倫理学へ——清末民初の道德意識の転化,東方書店,2023,288pp.

川尻文彦,清末思想研究——東西文明が交錯する思想空間,汲古書院,2022

陶徳民、吾妻重二、永田知之,中国学の近代的展開と日中交渉（アジア遊学 292）,勉誠社,2022,329pp.

王凡西著 G・ベントン編 寺本勉・長堀祐造・稲垣豊訳,毛沢東思想論稿,柘植書房新社,2022,521pp.

【論文】

陳捷,服部宇之吉家書（附日記）解題・翻刻,東洋文化研究所紀要,184,2024,pp.254(1)-197(58)

川尻文彦,李大釗「民彝与政治」再考——日本留学時期の李大釗の「唯民主義」と J・S・ミル『代議制統治論』について,『愛知県立大学外国語学部紀要』（言語・文学編）,56,2024,pp.240-262

川尻文彦,在日時期、梁啓超における社会主義認識,孫文研究,74,2024,pp.6-28

川尻文彦,竹内好と丸山眞男——福澤諭吉『脱亜論』とアジア主義をめぐって,中京大学国際学部紀要,8,2024,pp.25-40

川尻文彦,梁啓超と河上肇——経済学と社会主義をめぐる両者の「接点」を探る,汲古,86,2024,pp.32-38

陳来著・永富青地訳,余英時先生との学术交流雑憶,環日本海研究年報,29,2024,pp.1-14

陳捷,関于 19 世紀七八十年代中国書画家遊歴日本の考察,中国近現代美術留学史料与研究検討会文集,広西師範大学出版社,2024,pp.188-208

陳佑真,松崎鶴雄が考えた古代の歌声——「伝統」漢学の『詩経』解釈を超えて,「日本の伝統文化」を問い直す,臨川書店,2024,pp.378-398

小島毅,唐君毅の「自作主宰」——人格尊嚴の根拠として,尊嚴概念の轉移,法政大学出版局,2024,pp.337-356

陳捷,安井小太郎『寓燕日記』解題・翻刻,東洋文化研究所紀要,183,2023,pp.254(1)-197(58)

陳捷,『(清国家家庭及学堂用) 家政学』中の西洋飲食及西餐礼儀,南国學術,13(3),2023,pp.397-409

陳捷,邁宋書館銅版『西清古鑑』刊印始末考,印刷文化,2023(4),2023,pp.86-102

陳捷、程善善、田九七,『大河内文書』訳註(1),中国哲学研究,33,2023,pp.56-88

川尻文彦,大阪毎日新聞上海特派員村田孜郎について——1921 年 4 月、上海フランス租界での李漢俊(李人傑)と芥川龍之介の面談を設定した背景を探る,人文学研究所報(神奈川大学人文学研究所),70,2023

川尻文彦,世界文明の利澤に均霑せしむ——日清間の版權問題とアジア主義の狭間,中国文史論叢(中国文史研究会),19,2023

川尻文彦,李漢俊について——中国共産党創建の思想的背景と『星期評論』によるマルクス主義学説の紹介,愛知県立大学大学院国際文化研究科論集,24,2023

吾妻重二,石濱純太郎散論——石濱と橋川時雄、学位論文、エリセーエフ,国際シンポジウム論文集 内藤湖南と石濱純太郎 近代東洋学の射程——内藤・石濱両文庫収蔵資料を中心に(玄幸子編,関西大学東西学術研究所研究叢刊 65),関西大学出版部,2023,pp.1-37

川尻文彦,亡命中国人,思想史講義【明治篇Ⅱ】(山口輝臣下・福家崇拝編),筑摩書房,2023

陳来著・永富青地訳,陳栄捷先生と私,環日本海研究年報,28,2023,pp.1-16

葉朗著・河内利治監訳、馮景一明・山田沙奈・李源・丁子戊・楊鐸熙訳注,葉朗著『中国美学史大綱』第二十三章 梁啓超の美学 第一節～第三節 訳,書道学論集,20,2023,pp.1-8

陳捷,岡千仞『繙譯米利堅志』解題,近代日本漢文文献叢刊第 1 輯第 13 冊,上海古籍出版社,2022

陳捷,高橋二郎抄譯,岡千仞刪定,重野安繹、藤野正啓評閲『法蘭西志』解題,近代日本漢文文献叢刊第 1 輯第 13 冊,上海古籍出版社,2022

陳捷,増田貢『清史攬要』、『満清史略』解題,近代日本漢文文献叢刊第 1 輯第 19 冊,上海古籍出版社,2022

李華雨、陳捷,関義臣『日本名家經史論存』解題,近代日本漢文文献叢刊第 1 輯第 6-8 冊,上海古籍出版社,2022

伊東貴之,書評:楊儒賓『1949 禮讚』(台北・聯經出版),日本研究,64,2022,pp.260-264

伊東貴之,人文精神の世界からも、巨匠が退場!——習近平政權・異例の三期目、一強体制と海峡兩岸の行方【2022 年中国文学・文化年末回顧】,図書新聞,3572,2022

吉田薫,梁啓超(飲氷)と莊子が辿った「人間世」素描—変法、新民、開明専制を経て—,日本女子大学文学部紀要,71,2022,pp.23-49

川尻文彦,日本留学時期の李大釗——年譜的考察,愛知県立大学大学院国際文化研究科論集,23,2022,pp.1-20

陳捷,服部繁子撰『(清国家家庭及学堂用) 家政学』における西洋料理とそのエチケットについて,環日本海

研究年報,27,2022,pp.64-84

陳捷、吳孟晋,森琴石ゆかりの中国書画および書簡資料について——来舶清人との交流を中心に——,学叢,44,2022,pp.79-109

川尻文彦,近代中国の知識人たちは「文明」をどのように捉えたのか,文明と覇権から見る中国,ウェッジ,2022,pp.3-32

川尻文彦,梁啓超「東学」的重探——是福澤諭吉?還是德富蘇峰?,東亜思想交流史中的脈絡性轉換,国立台湾大学人文社会高等研究院,2022,pp.257-284

川尻文彦,第5講 万国公法,思想史講義【明治篇Ⅰ】,筑摩書房,2022,pp.93-108

川尻文彦,正則英語学校と清末の中国人留学生——上海での教科書裁判も紹介する,明治から昭和の中国人留学生の諸相,東方書店,2022,pp.91-115

陳来著・日比野晋也・吾妻重二訳,清華大学の国学研究百年,関西大学東西学術研究所創立七十周年記念論文集,関西大学出版部,2022,pp.1-14

■哲学 09.仏教・道教・民間信仰

【単行本】

湯城吉信,五井蘭洲著『承聖篇』翻刻・注釈,汲古書院,2024,276pp.

方立天著、菅野博史、張文良監訳、齋藤智寛、柳幹康、松森秀幸、中西俊英訳,中国仏教哲学要義,大蔵出版,2023,1180pp.

方立天著・齋藤智寛、菅野博史、張文良訳,中国仏教哲学要義,大蔵出版,2023,1182pp.

小川隆,禅僧たちの生涯——唐代の禅,春秋社,2022,304pp.

【論文】

春本秀雄,「三武一宗の法難」の称谓について,大正大學研究紀要,109,2024

林雅清、小林康正、安田ひろみ、中山紀子,台湾における媽祖廟および媽祖行列に関する調査報告～台北天后宮・龍山寺・關渡宮・北港朝天宮の実地調査および「北港迎媽祖遶境體驗營」に参加して～,京都文教大学総合社会学部研究紀要,25,2024,pp.63-68

春本秀雄,北魏廃仏研究について——CNKIの論文を踏まえて——,大正大学研究紀要,108,2023,pp.1-22

林佳恵,古靈宝經に於ける『法輪妙經』の位置付け——陸修静による靈宝經典分類の再考,東洋の思想と宗教,40,2023,pp.114-132

二階堂善弘,大連金州道觀の五大仙,東アジアの思想・芸術と文化交渉(東西学術研究所研究叢書第13号),関西大学東西学術研究所,2023,pp.197-213

横手裕、浦山きか、内山直樹,『東医宝鑑』の医学思想と宗教的倫理性——中韓医学の人体原理と宗教的理想との関係について——,2019年度～2021年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書,研究報告書,2023,pp.150-184

林佳恵、浅野愛,『太上洞玄靈宝真一勸戒法輪妙經』訳注ノート,論叢アジアの文化と思想,31,2023,pp.1-65

小川隆、張超、ディディエ・ダヴァン,『大慧普覚禅師宗門武庫』訳注稿(2),駒澤大学禅研究所年報,34,2022,pp.320(1)-281(49)

山田明広、三尾裕子、藤野陽平、原英子、林美容、劉智豪、山田明広、陳梅卿、遠藤協、五十嵐真子,廟神の出自により儀礼に差異は見られるか——台湾の日本神を祀る廟と中華神を祀る廟における儀礼・祭祀の比較,台湾で日本人を祀る 鬼(クイ)から神(シン)への現代人類学,慶應義塾大学出版

会,2022,pp.171-212

石田秀実著、金兌垠訳、中国古代における天の觀念と医学思想の形成——一天の多義性と天人の關係に関する本末の治法一、医哲学研究,32,2022,pp.3-50

■哲学 10.琉球・朝鮮

【単行本】

【論文】

伊東貴之、東亜“家礼学”研究の新起点——談《東亜＜家礼＞文献汇编》の學術価値、現代儒学,15,2024,pp.265-278

紺野達也、蔡大鼎の離別詩について、琉球歴史と東亞世界——第17届中琉歴史關係國際學術會議論文集,中国評論學術出版社,2024,pp.213-229

紺野達也、关于蔡大鼎的尺牘——以蔡大鼎和福州人士之间交流为中心、守礼之邦：中琉关系与亚洲文明——第16届中琉歴史關係國際學術會議論文集,中国評論學術出版社,2024,pp.144-166

水口拓寿、清水浩子、田中良明、高橋あやの、鄭淳一、山口えり、山下克明、マティアス・ハイエク、佐々木聡、洲脇武志、佐野誠子、山崎藍、深澤瞳、宇野瑞木、松浦史子、小塩慶、ファム・レ・フィ、名和敏光、三浦雄城、椛島雅弘、小倉聖、王祥偉、游自勇、朴杰淳、押川信久、裴伯鈞、世宗期の天文曆算学における中国知識の受容、東アジア的世界分析の方法：「術数文化」の可能性、文学通信,2024,pp.75-87

紺野達也、蔡大鼎の漢詩文における「科」と「科举」、海邦養秀 第18届中琉歴史關係國際學術會議論文集,中琉文化經濟協會,2023,pp.153-172

いしみのぞむ、平成尖閣研究二首、人間文化研究,20,2022,pp.41-52

紺野達也、蔡大鼎『漏刻樓集』序譯注稿、神戸外大論叢,75(2),2022,pp.103-133

金兌垠、『東医宝鑑』の医学思想と宗教的倫理性——中韓医学の人体原理と宗教的理想との關係について——、2019年度～2021年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書,なし,2022,pp.153-187

■哲学 11.日本

【単行本】

湯城吉信、五井蘭洲著『承聖篇』翻刻・注釈—江戸時代の儒者による仏教批判、汲古書院,2024,276pp.

有馬卓也、志士たちの詩想、広島大学出版会,2024,255pp.

小島毅、近代日本の陽明学、講談社,2024,304pp.

吾妻重二 編著、家礼文献集成 日本篇 12、関西大学出版部,2024,338pp.

吾妻重二、家礼文献集成 日本篇 11（関西大学東西学術研究所資料集刊 27-11）、関西大学出版部,2023,364pp.

松崎哲之、水戸学事始、ミネルヴァ書房,2023,330pp.

石運、十七・十八世紀の日本儒学と明清考証学、ベリかん社,2023,388pp.

村山敬三、藍澤南城の学問と教育、汲古書院,2023,608pp.

中島隆博、日本の近代思想を読みなおす 1 哲学、東京大学出版会,2023,432pp.

有馬卓也、岡本韋庵の北方構想、中国書店,2023,262pp.

吾妻重二、家礼文献集成 日本篇 10（編著 関西大学東西学術研究所資料集刊 27-10）、関西大学出版部,2022,344pp.

吾妻重二監修、横山俊一郎著、泊園書院の人びと——その七百二人、清文堂出版、2022

高田宗平編著、日本漢籍受容史—日本文化の基層—、八木書店出版部、2022、698pp.+口絵 16pp.

【論文】

永富青地、慶應義塾図書館所蔵大塩中斎批注『標註伝習録』について、陽明学、34、2024、pp.1-31

陳捷、服部宇之吉家書（附日記）解題・翻刻、東洋文化研究所紀要、184、2024、pp.254(1)-197(58)

伊東貴之、伝統中国の政治思想と日本——古代から近世まで／比較史的・比較思想的考察、武蔵大学総合研究機構紀要、33、2024、pp.127-150

伊東貴之、東亜“家礼学”研究的里程標——談《東亜＜家礼＞文献汇编》の學術価値、現代儒学、15、2024

湯城吉信、五井蘭洲による伊藤仁斎批判—『非伊編』（総論部）翻刻・訳注、懷徳堂研究、15、2024、pp.3-20

原信太郎アレシャンドレ、山田方谷「冬編農兵作」詩攷、駒澤大学 文化、42、2024、pp.21-53

原信太郎アレシャンドレ、山田方谷における誠意説の基盤、駒澤大学総合教育研究部紀要、18、2024、pp.19-41

原信太郎アレシャンドレ、山田方谷と山村勉斎：『山田方谷全集』未収資料二篇を読む、高梁方谷会報、46、2024、pp.22-29

高田宗平、「沈痾自哀文」と漢籍—『孫子算経』受容試論—、万葉古代学研究年報、22、2024、pp.176(39)-163(52)

青木洋司、片山兼山『論語微癢疾』小考、國學院雑誌、125(12)、2024、pp.95-115

青木洋司、中村惕斎『論語集注鈔説』小考、日本儒教学会報、8、2024、pp.59-72

野間文史、春秋稽古讀書札記Ⅷ 校勘について、東洋古典學研究、57、2024、pp.27-35

野間文史、春秋稽古讀書札記Ⅸ 清朝考證學に向かうか、東洋古典學研究、58、2024、pp.13-25

松崎哲之、会沢正志斎の孝について、中国文化、82、2024、pp.44-56

土田健次郎、『論語』をして『論語』を語らしめよ—日本的孔子像の形成—、國學院雑誌、125(12)、2024、pp.1-19

白井順、細野要斎における闇斎学、東洋思想文化、11、2024、pp.31-58

有馬卓也、岡本韋庵『教育界大鉄槌』翻刻・訳注（上）、東洋古典学研究、57、2024、pp.127-146

有馬卓也、岡本韋庵『教育界大鉄槌』翻刻・訳注（下）、東洋古典学研究、58、2024、pp.133-149

伊東貴之、伝統中国の政治思想と日本——古代から近世まで／比較史的・比較思想的考察、武蔵大学総合研究機構紀要、33、2024、pp.127-150

伊東貴之、東亜“家礼学”研究的新起点——談《東亜＜家礼＞文献汇编》の學術価値、現代儒学、15、2024、pp.265-278

荒木龍太郎、藤井倫明、関幹雄、「読我書楼文草」翻刻研究（二）—九州大学附属図書館蔵「吉村家文庫」の研究〔Ⅰ〕—、活水日文、65、2024、pp.25-36

陳捷、関于 19 世紀七八十年代中国書画家遊歴日本の考察、中国近現代美術留学史料与研究検討会文集、広西師範大学出版社、2024、pp.188-208

工藤卓司、日本徳川時代「三禮」研究概況序説、經學研究的傳統與新變、新鋭文創、2024、pp.352-398

松川雅信、近世日本社会と儒者の『家礼』受容、今に伝える韓国の宗家祭祀—朴煥玖写真集、文理閣、2024、pp.158-182

松下道信、『太上説北斗元靈本命延生妙経』校注、吉田神道未公刊資料集 1（神道資料叢刊 19）、皇學館大学研究開発推進センター神道研究所、2024、pp.3-152

陳捷、服部宇之吉『北馬録』解題・翻刻、東洋文化研究所紀要、182、2023、pp.268(63)-230(101)

陳捷,安井小太郎『寓燕日記』解題・翻刻,東洋文化研究所紀要,183,2023,pp.254(1)-197(58)

陳捷,(清国家庭及学堂用)家政学』中的西洋飲食及西餐礼儀,南国學術,13(3),2023,pp.397-409

陳捷,邁末書館銅版『西清古鑑』刊印始末考,印刷文化,2023(4),2023,pp.86-102

堀尾裕真,荻生徂徠『読荀子』成立時期に関する一考察:宇佐美瀾水を中心として,名古屋大學中國哲學論集,22,2023,pp.113-136

陳捷、程善善、田九七,『大河内文書』訳註(1),中国哲学研究,33,2023,pp.56-88

陳捷,日本江戸中后期好古家对古代书籍装订形式和装具的研究,書籍之為芸術:中国古代書籍中の芸術元素學術研討会論文集,中国美術学院出版社,2023,pp.391-422

阿部光磨,【書評】澤井啓一『伊藤仁斎 一孔孟の真血脈を知る一』,日本思想史学,55,2023,pp.176-180

井上了,中井履軒『典謨接』排印本(『松雲堂娛刻書』第五、昭和十二年),懷徳,90,2023,pp.65-70

永塚憲治,『艷本房術龍之卷』について,医譚,118,2023,pp.168-172

永塚憲治,艷本『色道奥義極秘傳』の解題・翻刻,医譚,117,2023,pp.91-104

永塚憲治,『艷本房術龍之卷』について:『素女妙論』の江戸中後期の流通と受容について,医譚,118,2023,pp.11077-11086

永富青地,佐藤一斎および大塩中斎による王守仁『大学古本傍釈』の受容一併せて佐藤一斎による「大学古本序」挿注を論ず一,東洋の思想と宗教,40,2023,pp.39-55

永富青地,慶應義塾図書館所蔵大塩中斎批注大学について,環日本海研究年報,28,2023,pp.17-33

永富青地,安岡正篤の陽明学理解について,『近代日本の学術と陽明学』(『陽明学』別冊),『陽明学』別冊,2023,pp.141-160

王怡静,新井白石『家礼儀節考』について:書誌学的考察を中心に,東アジア文化交渉研究,16,2023,pp.321-342

梶田祥嗣,三宅雪嶺と儒教一『王陽明』における「思想」観をめぐって一,流経法学,22(2),2023,pp.9-32

韓淑婷,佐久間象山『喪礼私説』の礼式について一「治棺」「作主」「誌石」「墓碑」を中心に一,東アジア文化交渉研究,16,2023

韓淑婷,江戸後期の礼楽論に関する一考察一塚田大峯の『聖道得門』を中心に一,関西大学中国文学会紀要,44,2023

久米裕子,中井履軒『通語』諸注釈書小考一その特色と漢文教材としての可能性について一,中国研究集刊,69,2023,pp.159-179

原信太郎アレシヤンドレ,岡本天岳「順一氣自然辨」訳注,高梁方谷会報,45,2023,pp.15-24

吾妻重二,蟹養斎の『家礼』関連著述とその特色,東アジア文化交渉研究,16,2023,pp.139-168

吾妻重二,日本における『家礼』式儒墓について——東アジア文化交渉の視点から(四),関西大学東西学術研究所紀要,56,2023,pp.3-36

荒木龍太郎,幕末陽明学者吉村秋陽の明末思想理解一「格致賸議」を通して(一)一,活水日文,64,2023,pp.74-82

項依然,中井履軒『大学雑議』中の「明明徳」诠释,齐鲁学刊,2023年第1期,2023,pp.36-46

項依然,从「三教批判」到「誠之道」——富永仲基『翁之文』的展开,愛知論叢,第115号,2023,pp.83-105

松野敏之,『小学句読集疏』の編纂——江戸時代前期における『小学』受容——,国文学論輯,44,2023,pp.35-55

竹田健二,西村天囚と含翠堂,懷徳,91,2023,pp.38-47

竹田健二,翻刻 西村天囚著『懷徳堂考之一』(その二),島根大学教育学部紀要,56,2023,pp.55-66

- 竹田健二,西村天囚『懷德堂資料』の成立事情と『奠陰集』,中国研究集刊,69,2023,pp.53-70
- 張曉明,日本近世“義利之辨”的詮釋理路：道之宜、羞惡、公利,東疆學刊,2023 年第 4 期,2023,pp.9-16
- 張曉明,黃榮宗在江戶時代的越境與共生——以隱元隆琦為中心,佛學研究,2023 年第 1 期,2023,pp.328-340
- 張曉明,漢化佛教東傳日本的“絲綢之路”文化傳播史意義——從敦煌到奈良,國際漢學研究通訊,2023 第 26 期,2023,pp.21-42
- 土田健次郎,書評・江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究(西岡和彦、石本道明、青木洋司著),國學院雜誌,124(5),2023,pp.22-25
- 白井順,細野要齋における闇齋学,東洋思想文化,11,2023,pp.30-58
- 薄井俊二,天皇の巡幸を契機とする埼玉県師範学校に関わる石碑について(その一)―「行在所記念之碑」と鳳翔閣一,埼玉大学紀要(教育学部),72(2),2023,pp.219-245
- 薄井俊二,天皇の巡幸を契機とする埼玉県師範学校に関わる石碑について(その二)―「鳳翔記光碑」,埼玉大学紀要(教育学部),72(2),2023,pp.247-269
- 野間文史,『春秋稽古』讀書札記VI 衍文・脫文・錯簡,東洋古典學研究,55,2023,pp.37-50
- 野間文史,『春秋稽古』『春秋稽古』讀書札記VII 衍文・闕文,東洋古典學研究,56,2023,pp.19-29
- 矢羽野隆男,浅見綱齋『楚辞師說』初探,中国研究集刊 湯浅邦弘教授退休記念号,69,2023,pp.119-137
- 矢羽野隆男,西村天囚『論語集釈』と『論語後案』書入れと,懷德堂研究,14,2023,pp.69-87
- 有馬卓也,岡本韋庵『小學讀本標準』翻刻・訳注,東洋古典學研究,55,2023,pp.99-107
- 有馬卓也,岡本韋庵『古訓略解』翻刻・訳注,東洋古典學研究,56,2023,pp.131-140
- 吾妻重二,馬鬣封について——儒式墓の一例,東アジアの思想・芸術と文化交渉(二階堂善弘編,関西大学東西学術研究所研究叢書第 13 号),関西大学東西学術研究所,2023,pp.1-43
- 工藤卓司,遠藤隆吉《孔子傳》的學術地位,經學的國際化：從國際視野看經學的當代性,中央研究院中國文哲研究所,2023,pp.347-400
- 竹田健二,武内義雄と吉田鋭雄一重建懷德堂講師の留学と西村天囚,中国学の近代的展開と日中交渉 アジア遊学 292,勉誠社,2023,pp.212-225
- 高田宗平,作為日本古代漢籍接受形態的“取意略抄”——日本国立歴史民俗博物館所藏反町茂雄旧藏典籍古文書《貞觀政要一節》的簡介,東亞漢籍与漢文学論集 初編(中華文明傳播史研究叢刊),商務印書館,2023,pp.222-231
- 荒木龍太郎、関幹雄,読我書樓長曆翻刻(4)——九州大学附属図書館蔵「吉村家文庫」の研究〔2〕,活水日文,644,2023,pp.44-75
- 竹田健二、湯浅邦弘、池田光子,旧西村家所蔵西村天囚関係資料目録—鉄砲館・黎明館に現存する資料について—,懷德堂研究,14,2023,pp.89-111
- 長尾直茂、浅山佳郎、瀧康秀、永由徳夫、比留間健一,羅山隨筆抄訓釈稿(十一),上智大学国文学科紀要,40,2023,pp.77-150
- 林雅清、中山紀子,佐伯藩内における媽祖信仰の受容——大分市伊東家伝来天妃像の伝承を中心に——,京都文教大学総合社会学部研究紀要,24,2023,pp.33-41
- 鍋島亜朱華、范麗梅,幕末陽明学者吉村秋陽的解經方式——以『大学賸義』為中心,離詞、辨言、聞道：古典研究再出発,中央研究院,2023,pp.393-414
- ショーン・オドワイヤー著、中里見敬訳,近代日本の儒教と戦争,言語文化論究,51,2023,pp.1-18
- 陳捷,岡千仞『尊攘紀事』、『訂正尊攘紀事補遺』解題,『近代日本漢文文献叢刊』第 1 輯第 10,上海古籍出版社,2022

陳捷,岡千仞『繙譯米利堅志』解題,近代日本漢文文献叢刊第1輯第13冊,上海古籍出版社,2022

陳捷,高橋二郎抄譯,岡千仞刪定,重野安繹、藤野正啓評閱『法蘭西志』解題,近代日本漢文文献叢刊第1輯第13冊,上海古籍出版社,2022

陳捷,増田貢『清史攬要』、『満清史略』解題,近代日本漢文文献叢刊第1輯第19冊,上海古籍出版社,2022

李華雨、陳捷,関義臣『日本名家經史論存』解題,近代日本漢文文献叢刊第1輯第6冊,上海古籍出版社,2022

伊東貴之,「禮教」の滲透・汎化とその展開——中國を中心とする近世東アジアの事例から——,中国思想史研究,43,2022,pp.103-145

伊東貴之,Yuxin Lü, Polity, Civilization and Nationalism: Political Thoughts in Tokugawa Japan (Hong Kong : Hong Kong Chinese University Press),The Chinese Historical Review, 29(2),2022,pp.142-146

永塚憲治,艶本『艶顔色鉢の木』に引用される『醫心方』房内について,『医譚』,113,2022,pp.10337-10344

永富青地,語られざる陽明学者—安岡正篤について—,環日本海研究年報,27,2022,pp.1-7

原信太郎アレシャンドレ,山田方谷における実効性と道義性——『大学』解釈に即して——,日本儒教学会報,6,2022,pp.67-82

吾妻重二, 林氏墓地と林述斎・佐藤一斎の墓制,関西大学文学論集,72(1-2),2022

吾妻重二,『家礼』と崎門派における神主・櫛・墓碑・墓誌,関西大学中国文学会紀要,43,2022,pp.1-26

吾妻重二, 三宅尚斎の『家礼』関連著述について——『朱子家礼筆記』『家礼雜記』など,東アジア文化交渉研究,15,2022,pp.233-249

吾妻重二,日本における『家礼』式儒墓について——東アジア文化交渉の視点から(三),関西大学東西学術研究所紀要,55,2022,pp.3-36

荒木龍太郎,日本における陽明学研究の継承と展開—荒木見悟博士の宋明思想研究を通して—,活水日本文,63,2022,pp.58-71

項依然,中井履軒人性論思想探析——以『论语逢原』『孟子逢原』为中心,日本哲学与思想研究(2020),2020年版,2022,pp.112-129

小島毅,儒家传统文化对近代日本“自由”概念的影响——以中江兆民与江原素六的阐述为例,日语学习与研究,220,2022,pp.1-11

松川雅信,昭和戦前期の山崎闇斎研究と植民地朝鮮—阿部吉雄をめぐって,日本儒教学会報,6,2022,pp.83-98

松川雅信,平泉澄の山崎闇斎研究と「日本精神」—昭和戦前期にとっての近世思想史,新しい歴史学のために,301,2022,pp.72-89

松野敏之,新井白石の礼楽構想,国文学論輯,43,2022,pp.13-39

松崎哲之,会沢正志斎の經学思想における術数学について,中国文化——研究と教育——,80,2022

水口拓寿,金精は華の如く、銀精は龍の如く：山相秘録の探鉱法に見る望気術と風水術の影響,中国哲学研究,32,2022

青木洋司,中村惕齋『筆記書集傳』管見,國學院中國學會報,68,2022,pp.85-104

張曉明,日本的《孟子》接受史考論——从中世禪林到近世儒學,漢籍與漢學,2022年第1輯,2022,pp.73-87

張曉明,儒學日本化的一个典型——以古學对《孟子》評價的分歧为中心,日本學研究,2022年第1輯,2022,pp.196-207

張曉明,重新審視山鹿素行的日本思想史地位——臨界与轉向的双重意義,日本問題研究,2022年第5期,2022,pp.37-46

- 土田健次郎,日本の朱子学と古学—弘前藩の学術を展望して—,東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録,8,2022,pp.1-11
- 土田健次郎,伊藤東涯の『論語古義』講義—古義学の基本的性格—,新しい漢字漢文教育,73,2022,pp.17-31
- 藤居岳人,書評 清水光明著『近世日本の政治改革と知識人—中井竹山と「草茅危言」』,懷徳,90,2022,pp.34-43
- 武石智典,広瀬淡窓の身分認識—士分についての考察,咸宜園教育研究センター研究紀要,11,2022,pp.26-33
- 武石智典,The Reception of Wen Tianxiang 's Song of the Righteousness Spirit by Yoshida Shōin and Tsukigata Senzō,哲学・思想論叢,40,2022,pp.60-70
- 末永高康,「辛酉甲子并革命革命年々」と「和漢辛酉年々」,国立歴史民俗博物館研究報告,233,2022,pp.61-71
- 野間文史,『春秋稽古』讀書札記Ⅳ 句讀・「愁」・「乘馬」,東洋古典學研究,53,2022
- 野間文史,『春秋稽古』讀書札記Ⅴ 三恪・命・得死乃非我・執訊・鵲巢,東洋古典學研究,54,2022
- 有馬卓也,岡本韋庵の女子教育論,東洋古典学研究,53,2022,pp.79-94
- 有馬卓也,岡本韋庵関連資料(六),東洋古典学研究,53,2022,pp.151-162
- 有馬卓也,岡本韋庵関連資料(七),東洋古典学研究,54,2022,pp.123-132
- 廖嘉祈,「除奸」と「殉難」の間—水戸学者・豊田天功と吉田松陰における楊繼盛受容—,日本思想史学,54,2022
- 高田宗平,漢籍受容の形態としての「取意略抄」—国立歴史民俗博物館所蔵反町茂雄旧蔵典籍古文書『貞観政要一節』をめぐって—,紀要(哲学)(中央大学文学部),287(63),2022,pp.23-40
- HAN Shuting,The Confucian Classics in the Political Thought of Sakuma Shōzan,Handbook of Confucianism in Modern Japan,Japan Documents, an imprint of MHM Limited, Tokyo, Japan,2022
- 韓淑婷,佐久間象山和《家礼》,視域交匯中的經学与家礼学(復旦哲学・中国哲学叢書),上海古籍出版社,2022
- 吾妻重二,泊園書院に関するいくつかの考察——東暎・泊園の名、書院の再興・運営など,関西大学東西学術研究所創立七十周年記念論文集,関西大学出版部,2022,pp.65-91
- 吾妻重二,泊園書院デジタルデータベースとその応用,KU-ORCAS が開くデジタル化時代の東アジア文化研究,関西大学アジア・オープン・リサーチセンター,2022,pp.87-101
- 中島隆博,近代日本哲学の光と影,私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか,トランスビュー,2022,pp.111-133
- 中島隆博,桑木嚴翼と中国哲学,東アジアにおける哲学の生成と発展——問文化の視点から,法政大学出版局,2022,pp.632-651
- 陳捷,江戸中後期好古家による古典籍装訂・装具研究について,日本漢籍受容史—日本文化の基層—,八木書店出版部,2022,pp.415-445
- 長尾直茂、浅山佳郎、比留間健一、瀧康秀、永由徳夫,羅山隨筆抄訓積稿,上智大学国文学科紀要,39,2022,pp.75-143
- 吾妻重二,佐藤一斎的《哀敬編》初探——日本阳明学与朱子学的交融(中国語,李洁訳),視域交汇中的經学与家礼学 下冊(吳震・郭曉東編),上海古籍出版社,2022,pp.782-797

【単行本】

【論文】

- 伊東貴之,東亜“家礼学”研究の里程標——談《東亜<家礼>文献汇编》の学術価値,現代儒学,15,2024
- 堀尾裕真,中村元恒と徂徠学関係著述に関する基礎的研究,名古屋大学人文学フォーラム,7,2024,pp.19-34
- 陳捷,邁宋書館銅版『西清古鑑』刊印始末考,印刷文化,2023(4),2023,pp.86-102
- 陳捷,日本江戸中后期好古家对古代书籍装订形式和装具的研究,書籍之為芸術:中国古代書籍中の芸術元素学術研討会論文集,中国美術学院出版社,2023,pp.391-422
- 井上了,中井履軒『典謨接』排印本(『松雲堂娛刻書』第五、昭和十二年),懷徳,91,2023,pp.65-70
- 高田宗平,作為日本古代漢籍接受形態的“取意略抄”——日本国立歴史民俗博物館所藏反町茂雄旧藏典籍古文書《貞觀政要一節》の簡介,東亜漢籍与漢文学論集 初編(中華文明伝播史研究叢刊),商務印書館,2023,pp.222-231
- 高田宗平,楊守敬觀海堂舊藏《論語義疏》鈔本略述,域外漢籍研究集刊(隋唐中國與域外文獻專號),23,2022,pp.125-148
- 高田宗平,作為日本古代漢籍接受形態的“取意略抄”——日本国立歴史民俗博物館所藏反町茂雄舊藏典籍古文書《貞觀政要一節》簡介,國際漢學研究通訊,23・24,2022,pp.50-59
- 佐々木聡,『礼緯含文嘉』の諸伝本と近世における天文五行占書の流布,呪術と学術の東アジア:陰陽道研究の継承と展望,勉誠出版,2022,pp.234-247
- 陳捷,江戸中後期好古家による古典籍装訂・装具研究について,高田宗平編『日本漢籍受容史—日本文化の基層—』論文集,八木書店出版部,2022,pp.415-445

■哲学 13.その他

【単行本】

- 井ノ口哲也,道德教育と中国思想,勁草書房,2022,280pp.
- 湯浅邦弘編著,よくわかる中国思想,ミネルヴァ書房,2022,212pp.
- 黄俊傑著、吉田絵里・工藤卓司訳、工藤卓司監訳,東アジア儒家仁学史論,集広舎,2022,511pp.

【論文】

- 齋藤智寛,禅思想研究者から見た井筒俊彦の禅理解,科研最終報告書(基盤研究(B)20H01199)井筒俊彦の思想形成期における東洋思想とその学問的視座,1,2024,pp.95-112
- 陳捷,坂元ひろ子先生を偲ぶ,九葉読詩会,9,2023,pp.197-202
- 永塚憲治,新出の曲直瀬流の養生書『攝生之常鑑』について,東方宗教,139,2023,pp.87-98
- 佐佐木聡,「從術數文献來看的寫本文化與博物學:以天文五行占書《禮緯含文嘉》為中心」,金沢学院大学紀要,21,2023,pp.184-194
- 中島隆博,Universalizing Tianxia in an East Asian Context,Tianxia In Comparative Perspectives: Alererative Models For A Possible Planetary Order,University of Hawai'i Press,2023,pp.236-249
- 永塚憲治、松岡尚則、別府正志、牧野利明,モグサの起源植物・植物名についての一考察,藤門医林,35,2023,pp.40-43
- 田村祐之、李海、田村加代子,中国における信仰と思想(抄訳)第三章 儒仏道の過去と未来,名古屋大學中國語學文學論集,37,2023,pp.1-23
- 鶴成久章,『論語』の教材研究のために—「仁」の朱子学的解釈について—,福岡教育大学国語科研究論

集,63,2022,pp.29-42

佐々木聡,中国歴代王朝における天文五行占書の編纂と禁書政策,術数学研究の課題と方法,汲古書院,2022,pp.97-124

市來津由彦,返り点を付ける,入門 中国学の方法,勉誠出版,2022,pp.219-244

■文学 01.総記

【単行本】

松村茂樹,書の語られ方 中国篇 書論通観 1,日本経済評論社,2024,132pp.

松村茂樹,書の語られ方 日本篇 書論通観 2,日本経済評論社,2024,69pp.

小玉亮子、三成美保、松本悠子、伊藤公雄 など 293 名、編集担当：14 章：文学・表象文化・芸術,ジェンダー事典,丸善出版,2024,816pp.

河内利治、洪丕謨、沈培方,書話拾遺一書を学ぶ 83 のエピソード,東方書店,2023,246pp.

河内利治、三枝秀子、鈴木拓也、秋谷幸治、荻野友範、葉山恭江、宮下聖俊、亀澤孝幸、川内佑毅、陳達明,〈道〉研究論集,大東文化大学人文科学研究所,2023,255pp.

邱振中著、河内利治監訳、浅野天童訳,書法の形態と解釈,白帝社,2023,540pp.

竹村則行,楊貴妃文学史研究【電子書籍版】,22 世紀アート,2022,634pp.

河内利治、成田健太郎、河野道房,書画 美への招待 書画論,京都芸術大学、藝術学舎,2022,pp.1-51

【論文】

宋晗,文人という人間類型の射程 ,和漢比較文学,73,2024,pp.4-16

紺野達也,中国における担い手としての”文人”ー漢文文化圏の”文人”を考えるためにー ,和漢比較文学,73,2024,pp.31-34

浅見洋二,文人と税——杜甫・白居易・蘇軾・陸游を中心に,文藝論叢,102,2024,pp.1-30

浅見洋二,中国詩学における「力」の諸相,中国—社会と文化,39,2024,pp.5-25

永田知之,「国風」民間起源説の波紋——南宋末期から清代中期までの文学論を材料として,『〈中国の詩学〉を超えて』,研文出版,2024,pp.411-437

浅見洋二,「有力」と「無意」——中国詩学における風と水のイメージをめぐって,〈中国の詩学〉を超えて,研文出版,2024,pp.373-409

川合康三・大谷雅夫・黒田真美子・小島毅・後藤昭雄編,文徴明、帰有光、王世貞,中国/日本〈漢〉文化大事典,明治書院,2024,pp.440-441、pp.441-442、pp.442-444

岑天翔,中国詩学研究年度報告(2022),中国詩学研究報告(日本),安徽師範大学出版社,2023,pp.262-270

加藤聰,漢文現代日本語訳の諸相：漢詩の訳文から見る,文学・語学,239,2023,pp.82-91

河内利治,近二十年的大学書道教育之私見,鄭州大学大学書法編輯部,25,2023,pp.34-41

河内利治(君平),日中国交正常化五十周年を祝して,大東書道研究,30,2023,pp.16-17

野村鮎子,前近代中国における女性同性愛/女性情誼のエクリチュール,奈良女子大学文学部研究教育年報,19,2023,pp.9-23

河内利治,道と書,〈道〉研究論集,大東文化大学人文科学研究所,2023,pp.233-255

野村鮎子,父系原理と男耕女織,論点・ジェンダー史学,ミネルヴァ書房,2023,pp.2-3

野村鮎子,中国・台湾の女性と相続の歴史,「ひと」から問うジェンダーの世界史第2巻「社会」はどう作られるか?—家族・制度・文化,大阪大学出版会,2023,pp.78-79

野村鮎子,母の地位,「ひと」から問うジェンダーの世界史第2巻「社会」はどう作られるか?—家族・

制度・文化,大阪大学出版会,2023,p.56

野村鮎子,中国・台湾の女性と相続の歴史,「ひと」から問うジェンダーの世界史第2巻「社会」はどう作られるか?—家族・制度・文化,大阪大学出版会,2023,pp.78-79

大平桂一,書評『劍橋中國文學史』(ケンブリッジ中国文学史)上下二卷,人文学論集,40,2022,pp.105-131

河内利治,書法藝術性相關術語と現代學者解釋之比較研究,横山書法藝術館國際論壇文專刊,台灣桃園市立美術館,2022,pp.50-91

浅見洋二,盲者のシンボリズム——韓愈「拘幽操」、孟郊「寄張籍」、そして『論語』微子を結ぶもの,唐宋八大家研究,中国書店,2022,pp.70-83

浅見洋二,罪人の笑い——柳宗元と蘇軾,唐宋八大家研究,中国書店,2022,pp.160-166

浅見洋二,さまざまな自責——蘇洵「自尤」詩をめぐって,唐宋八大家研究,中国書店,2022,pp.219-226

野村鮎子,中國士大夫如何書寫家中女性:試從性別觀點研究中國古典文學,張宏生・卓清芬主編『空間與視野:明清文學與性別研究的新進境』,允晨文化實業股份有限公司,2022,pp.80-107

■文学 02.先秦

【単行本】

高戸聰,中国神話における神々と巫一天と人との媒介として一,汲古書院,2024,316pp.

常璩著・中林史朗訳,完訳 華陽国志,志学社,2023,394pp.

【論文】

森和,禹のいくつかの属性,治水神・禹王研究会誌,10,2023,pp.2-17

川口喜治,危機下の言説—先秦余論—,山口県立大学国際文化学部紀要,16,2023,pp.23-61

大野圭介,「楚詞」から『楚辞』へ——漢代における楚辞文芸の伝承と『春秋』——,桃の会論集,9,2023,pp.1-15

大野圭介,『山海経』の書名について——「山海」を中心に——,富山大学人文科学研究,79,2023,pp.230-209

石本道明,『詩経』「木瓜」義解管見:「喻」の機能について,國學院雑誌,123(7),2022,pp.1-21

川口喜治,危機下の言説—序論、『詩経』,山口県立大学国際文化学部紀要,28,2022,pp.91-130

■文学 03.漢魏晋南北朝

【単行本】

高戸聰,中国神話における神々と巫一天と人との媒介として一,汲古書院,2024,316pp.

福井佳夫,梁の蕭兄弟—昭明太子・簡文帝・元帝—,汲古書院,2024,616pp.

大村和人,六朝艶詩研究,中国文庫,2023,404pp.

中林史朗、田中良明、芦川敏彦、小塚由博、高橋睦美,藝文類聚卷五十一訓讀附索引,大東文化大學東洋研究所,2023,112pp.

仲村康太郎、成田健太郎,毘沙門堂藏 篆隸文体,臨川書店,2023,256pp.

【論文】

柳川順子,晋楽所奏「大曲」の編者,九州中国学会報,62,2024,pp.1-15

大平幸代,「田舎」武将の王敦を語る人々—『世説新語』豪爽篇と荊州桓氏幕下の僚属たち—,叙説,51,2024,pp.1-27

石井望, 邪馬台国時代の琉球を追い求めて(上中下) 石井望講演録, 八重山日報, 令和六年一月十二

至十四日版,2024,pp.7、3、3

鈴木敏雄,陶淵明「擬古」九首原詩考,中國中世文學研究,77,2024,pp.1-14

鮑功瀚,《梁書》校補七則,天一閣文丛,21,2024,pp.255-261

猿渡留理,曹植四言詩考(下)——文帝曹丕に献じた「応昭詩」の特徴——,桃の会論集 小南一郎先生傘寿紀念論集,9集,2024,pp.17-49

福井佳夫,曹植評伝(二),中京大学文学部紀要,58(2),2024,pp.1-40

福井佳夫,曹植評伝(三),中京大学文学部紀要,59(1),2024,pp.1-49

李澤厚、劉綱紀著・河内利治、梁開印、村田萌、李松樺、尹慶碩、馮景一明訳,釈『原道』—〈道〉の含意(一),書道学論集,21,2024,pp.1-14

上原究一,「義釈」続考——嚴顔は張飛に降りしや否や?,明清文学論集 その楽しさ その広がり,東方書店,2024,pp.3-30

宋吟,建安詩における自然描写の変容と作者の個——王粲・劉楨を中心に,〈中国の詩学〉を超えて 川合康三先生喜寿紀念論集,研文出版,2024,pp.21-46

谷口匡,漢文で『史記』を読む,大人が読みたい史記,三栄,2024,pp.114-117

井上了,孫皓「爾汝歌」の押韻について,集刊東洋学,129,2023,pp. 95-105

小川恒男,六朝樂府訳注(二十八),中国中世文学研究,76,2023,pp.73-103

森和,漢人の食—虎溪山漢簡「食方」初探—,日本秦漢史研究,24,2023,pp.34-60

宋吟,鮑照從軍詩における「白馬篇」の変奏: 戦場描写を中心に,集刊東洋学,128,2023,pp.41-61

大平幸代,六朝の射雉と君臣—雉場をめぐる勸戒のことば—,叙説,50,2023,pp.1-26

中木愛,謝靈運の「賞心」の受容と変容:『文選』所収の作品を中心に,中国中世文学研究,76,2023,pp.153-177

仲村康太郎,毘沙門堂蔵写本『篆隸文体』とその祖本:兼ねて『千字文』注、『蒙求』注の利用の問題を論ず,京都大学國文學論叢,49,2023,pp.25-50

陳錦清,時代を超えた共同製作——「顔含碑」の成立について——,中国文化,81,2023

陳錦清,「庾信の碑誌文の源流について——「郢州都督蕭子昭碑銘」との関連を中心に——,人間・環境学,32,2023

渡辺由美子,曹操と曹植の政治的理想の相違点について,三國志研究,18,2023,pp.133-140

堂蘭淑子,Nature and Enlightenment: Expressions of 'Resonantal Stimulus and Response' in the Poems 'An Outing on Mount Lu' and 'An Outing to Stone Gate' by Hui-Yüan and Others and Hsieh Ling-Yün's Poem 'From Chin-chu Gully I Cross a Ridge and Go along a Stream',ACTA Asiatica,125,2023,pp.53-68

堂蘭淑子,獨り遊ぶ山水—慧遠「遊廬山詩」と謝靈運山水詩をめぐる,中国文学報,97,2023,pp.1-31

福井佳夫,淹の「傑作の森」—吳興時代の賦作—,中京大学文学部紀要,57(2),2023,pp.1-74

福井佳夫,江淹の「赤虹賦」について,中京大学文学部論叢,9,2023,pp.11-32

福井佳夫,曹植評伝(一),中京大学文学部紀要,58(1),2023,pp.1-33

柳川順子,黄初年間における曹植の動向,県立広島大学地域創生学部紀要,2,2023,pp.93-104

鈴木崇義,『文心雕龍』に見える賦論の展開—「詮賦篇」を中心に—,國學院中國學會報,69,2023,pp.39-60

稀代麻也子,沈約『宋書』における二人の文帝:劉義隆と曹丕,大上正美先生傘寿紀念 三国志論集,汲古書院,2023,pp.133-152

大村和人,明代の西湖における「洛神賦」—袁宏道の「西湖」其一をめぐる—,大上正美先生傘寿紀念 三国志論集,汲古書院,2023,pp.255-280

- 柳川順子,曹氏兄弟と魏王朝,大上正美先生傘寿記念三国志論集,汲古書院,2023,pp.29-51
- 鈴木崇義,成公綏の「天地賦」について—魏晉における辞賦文学の側面から—,大上正美先生傘寿記念三国志論集,汲古書院,2023,pp.81-103
- 佐藤大志、釜谷武志、佐竹保子、林香奈、狩野雄、柳川順子,『宋書』楽志二訳注稿(四),未名,40・41,2023,pp.49-151
- 矢嶋美都子、渡邊義浩先生他,楽府題の銅雀妓、銅雀台に関する一考察—銅雀の妓の悲しみを中心に—,大上正美先生傘寿記念 三国志論集,汲古書院,2023,pp.205-227
- 渡邊登紀,謝惠連「七月七日夜詠牛女詩」について,東方学,144,2022,pp.19-37
- 河内利治,比況にみる草書の美意識,人文科学,27,2022,pp.130(1)-101(30)
- 稀代麻也子,沈約『宋書』の何承天,WASEDA RILAS JOURNAL,10,2022,pp.517-524
- 稀代麻也子,曹丕の「燕歌行」(別日)について,三国志研究,17,2022,pp.63-70
- 狩野雄,香る荀令君——詩文のなかの荀彧像,三国志研究,17,2022,pp.19-36
- 仙石知子,劉向『列女伝』と趙飛燕姉妹批判,日本儒教学会報,6,2022,pp.21-33
- 宋吟,張華「輕薄篇」試論,フェリス女学院大学文学部紀要,57,2022,pp.121-142
- 村田みお,『歴代名畫記』卷六王微「敘畫」譯注,Journal of International Studies,7,2022,pp.165-189
- 大平幸代,逃げる武人と闇夜の光——晋末から劉宋前期の北伐と觀世音応驗譚——,叙説,49,2022,pp.48-73
- 大野圭介,王逸『楚辞章句』における引詩について,富山大学人文科学研究,77,2022,pp.273-288
- 土屋聡,陶淵明田園詩の構造—その幸福の深層にあるもの—,中国文史論叢,18,2022,pp.1-22
- 土屋聡,陶淵明「歸園田居」五首における住居について—「方宅十余畝、草屋六七間」句を中心に—,中国文学論集,51,2022,pp.40-58
- 藤田衛,兼意の一連の抄に見えたる『修文殿御覽』引用の痕跡,東洋古典學研究,54,2022,pp.17-30
- 福井佳夫,息づく叙景—蕭綱文学の美質—,中京大学文学部論叢,8,2022,pp.83-99
- 福井佳夫,梁簡文帝評伝,中京大学文学部紀要,568(2),2022,pp.1-153
- 福井佳夫,江淹評伝,中京大学文学部紀要,57(1),2022,pp.1-173
- 矢田博士,書評・狩野雄著『香りの詩学—三国西晋詩の芳香表現』,集刊東洋学,127,2022,pp.81-95
- 柳川順子,曹植における「惟漢行」制作の動機,県立広島大学地域創生学部紀要,1,2022,pp.145-157
- 柳川順子,曹植文学の画期性—阮籍「詠懷詩」への継承に着目して—,中国文化,80,2022,pp.3-16
- 何遜著・小川恒男訳,何遜詩訳注(七),中国学研究論集,40,2022,pp.32-71
- 何遜著・小川恒男訳,六朝楽府訳注(二十七)—「長安道」十二首—,中国中世文学研究,75,2022,pp.32-73
- 李澤厚・劉綱紀著・河内利治監訳,漢代書論における美学思想 第一節・第二節訳注,書道学論集,19,2022,pp.13-18

■文学 04.隋・唐・五代

【単行本】

- 金鑫,唐詩史話,河南文芸出版社,2024,472pp.
- 紺野達也,王維『輞川集』の研究—詩歌・園林・繪畫の融合—,研文出版,2024
- 赤井益久、岡田充博、澤崎久和,唐代小説集『河東記』詳注,汲古書院,2024,708pp.
- 丸井憲,杜詩双声疊韻研究—聯綿語を超えて—,研文出版,2023,326pp.
- 小田健太,李賀詩論,早稲田大学出版部,2023

小塚由博、芦川敏彦、蔵中しのぶ、小林敏男、高橋睦美、田中良明、中林史朗、成田守、浜口俊裕、宮瀧交二、藝文類聚（巻五十）訓讀附索引、大東文化大学東洋研究所、2022、99pp.

詹滿江、佐藤保、横田むつみ、植松宏之、董子華、姚星煜、趙美子、浣花溪の女校書 薛濤の詩を読む、汲古書院、2022、456pp.

【論文】

宮澤正順、白居易と道林禪師との問答と道教、蓮花寺佛教研究所紀要、17、2024、pp.101-128

富嘉吟、『趙志集』三題、敦煌写本研究年報、18、2024、pp.57-64

富嘉吟、新見晚唐類書『雙金』攷、唐研究、29、2024、pp.205-216

中木愛、唐代の殷仲文詩受容に見える李善注活用の一様相：「勝引」の語を中心に、龍谷紀要、45(2)、2024、pp.59-72

金鑫、禮典的編纂與唐代文學精神、國際儒學（中英文）、4(2)、2024、pp.43-59

金鑫、六朝・唐代文学における「雲雨」「雨絶」の意味、六朝學術学会報、25、2024、pp.103-119

金鑫、中國古典詩文における「猿鳴」——山の奥から文人の世界へ——、中国文学報、98、2024、pp.1-34

谷口匡、杜甫散文文体論初探、杜甫研究年報、7、2024、pp.35-48

谷口匡、李甘の「説」について、京都教育大学国文学会誌、52、2024、pp.37-47

田村祐之、敦煌故事賦「燕子賦」訳注(1) —ツバメ夫婦、スズメ一家に新居を乗っ取られる—、姫路獨協大学国際文化論集、5、2024、pp.49-63

紺野達也、趙殿成『王右丞集箋注』編纂をめぐって、中國文學研究、50、2024、pp.213-229

好川聡、杜甫作品対照表 (<https://note.com/haochc>)、中唐文学会報、31、2024、pp.135-170

高津孝、杜甫と科擧—「士」という観点から—、東方学、148、2024、pp.1-19

東英寿、久保山哲二、韓愈・柳宗元と宋六大家の文体の相違について—唐宋八大家古文比較考—、日本宋代文学学会報、11、2024、pp.1-26

東山之會、賈島詩譯註（11）、中唐文学会報、31、2024、pp.81-128

遠藤星希、李賀と植物の比喩、「中国の詩学」を超えて：川合康三先生喜寿記念論集、研文出版、2024、pp.199-230

好川聡、韓愈詩における他者の戯画化、〈中国の詩学〉を超えて、研文出版、2024、pp.171-197

金鑫、張説の碑誌文とその變革の意義、集刊東洋学、128、2023、pp.1-20

金鑫、唐代の「仄韻律詩」について、日本中国学会報、75、2023、pp.76-90

金鑫、盛・中唐における古文先驅者の詩——その古体・近体傾向を手がかりに——、東京大学中国語中国文学研究室紀要、26、2023、pp.1-33

宮崎洋一、顏眞卿後裔略系圖二稿、文教グローバル、7、2023、pp.53-65

宮崎洋一、顏眞卿後裔移動一覽二稿、文教国文学、67、2023、pp.44(1)-25(20)

高津孝、李白と科擧、鹿大史学、70、2023、pp.18-26

ガイ・ホブズ（Guy Hobbs）、白居易の多面的な「真珠」、WEB 東方、2023年3月15日、2023

永田知之、書儀と罪の意識——死者を悼む言葉の定型化、敦煌写本研究年報、17、2023、pp.1-19

遠藤星希、杜甫の詩における「山河」の在り方とその変質について——安史の乱の前後を中心に、杜甫研究年報、6、2023、pp.1-14

加納留美子、『甘澤謠』『圓觀』および蘇軾「僧圓澤傳」訳注、相模国文、51、2023、pp.167-189

丸井憲、貞元期における韓愈の贈答詩（7）歐陽詹との応酬、中国詩文論叢、42、2023、pp.41-69

後藤秋正、「家書」は届いたか～杜甫「春望」の「家書抵万金」について、杜甫研究年報、6、2023、pp.45-61

- 後藤秋正,杜甫「蚕穀行」の諸問題,中国文化,81,2023,pp.33-45
- 好川聡,杜甫の自注にみえる編年意識について—「自京赴奉先縣詠懷五百字」以降の展開,杜甫研究年報,6,2023,pp.31-44
- 山田和大,韋応物「秋夜寄丘二十二員外」詩再考,中国中世文学研究,76,2023,pp.14-30
- 小田健太,杜甫「秋述」訳注,中国文化,81,2023,pp.72-81
- 谷口匡,杜甫「東西兩川説」訳注,杜甫研究年報,6,2023,pp.116-131
- 谷口匡,唐代古文家としての李翱の位置,中国文化,81,2023,pp.46-58
- 谷口高志,韓愈「鱷魚文」とその周辺——唐代の祝文系作品における地方官と神霊・怪異（下）——,佐賀大学語教育,7,2023,pp.34-51
- 中純子,羯鼓がもたらした音の世界,東方学,145,2023,pp.43-58
- 田村祐之,敦煌故事賦「燕子賦」訳注(1) —ツバメ夫婦、スズメ一家に新居を乗っ取られる—,姫路獨協大学国際言語文化論集,5,2023,pp.49-63
- 富嘉吟,『瑠玉集』流傳江戸考,敦煌写本研究年報,17,2023,pp.205-216
- 福田素子,消える茶商人 唐宋小説における茶商人像,walpurgis,2023,2023,pp.1-22
- 澤崎久和,唐代小説「封陟」と「任生」,國學院雑誌,124(7),2023,pp.1-20
- 紺野達也,絵画における王維『輞川集』—元明の画論・画評を中心に,輞川図と蘭亭曲水図 イメージとテクストの交響,勉誠出版,2023,pp.3-23
- 大賀晶子、小松謙、孫琳浄、川上萌実、永井もゆ、藤田優子,「舜子變」訳注（一）,京都府立大学学術報告 人文,75,2023
- 東山之會,賈島詩譯註（10）,中唐文学会報,30,2023,pp.45-77
- 澤崎久和、岡田充博、赤井益久,『河東記』訳注稿（十）,名古屋大学中国語学文学論集,36,2023,pp.17-178
- 陳柱著・谷口匡訳,韓門難易兩派の散文（下）—訳注・陳柱『中国散文史』—,京都教育大学国文学会誌,51,2023,pp.29-34
- 東英寿、久保山哲二,唐宋八大家古文の計量分析的考察—序、記、論の虚詞分析—,唐宋八大家研究,中国書店,2022,pp.12-33
- 丸井憲,貞元期における韓愈の贈答詩（六）—歐陽詹との応酬,中国詩文論叢,41,2022,pp.77-93
- 後藤秋正,「帶」の用法から見た杜甫の詩,杜甫研究年報,5,2022,pp.1-21
- 後藤秋正,杜甫詩の真偽—「虢国夫人」札記—,中国文化,80,2022,pp.17-29
- 荒川悠,詩豪と微婉—白居易の劉禹錫評価について—,中唐文学会報,29,2022,pp.1-21
- 佐野誠子,《廣古今五行記》中所見の五行災異徴應和佛教因果報應之關係,名古屋大学人文学論集,5,2022,pp.91-106
- 佐野誠子,『法苑珠林』感応縁所引僧伝考：《新梁高僧伝》構想の可能性,集刊 東洋学,126,2022,pp.23-42
- 谷口高志,白居易・元稹の祝文とその周辺——唐代の祝文系作品における地方官と神霊・怪異（上）——,九州地区国立大学教育系・文系研究論文集,9(1),2022,pp.1-31
- 加藤聰、齋藤茂、愛甲弘志、中木愛、上原尉暢,賈島詩譯註（9）,中唐文学会報,29,2022,pp.87-110
- 小松謙・井口千雪・大賀晶子・川上萌実・孫琳浄・田村彩子・永井もゆ・藤田優子・宮本陽佳,「漢將王陵變」訳注（二）,和漢語文研究,20,2022,pp.164-188
- 小松謙・井口千雪・大賀晶子・川上萌実・孫琳浄・田村彩子・永井もゆ・藤田優子・宮本陽佳,「漢將王陵變」訳注（一）,京都府立大学学術報告 人文,74,2022,pp.1-55

小塚由博、山口敦史、今井秀和、迫田（呉）幸栄、鈴木道代、堀井瑞生、金剛般若經集驗記注釈（四）,蓮華寺佛教研究所紀要,15,2022,pp.294-326

陳柱著・谷口匡訳、韓門難易兩派の散文（上）一訳注・陳柱『中国散文史』一,京都教育大学国文学会誌,50,2022,pp.57-70

■文学 05.宋

【単行本】

岑天翔、為功名而讀——晚宋古文選本研究（二冊）,花木蘭出版社,2024,341pp.

洪邁著・齋藤茂、田淵欣也、福田知可志、安田真穂、山口博子訳、夷堅志訳注丁志上,汲古書院,2024,311pp.

松尾肇子 靳春雨訳、雅詞的受容：中日文人對宋詞的期望,萬卷樓圖書,2023,262pp.

加納留美子、蘇軾詩論 反復される経験と詩語,研文出版,2022,340pp.

浅見洋二、陸游,明治書院,2022,525pp.

安田真穂、齋藤茂、田淵欣也、福田知可志、山口博子、『夷堅志』甲志上（再版）,汲古書院,2022,336pp.

東英寿、浅見洋二、副島一郎、内山精也、合山林太郎、山本嘉孝、宮原哲浩、唐宋八大家研究,中国書店,2022,315pp.

洪邁著・齋藤茂、田淵欣也、福田知可志、安田真穂、山口博子訳、夷堅志訳注丙志下,汲古書院,2022,309pp.

【論文】

湯浅陽子、「閉門」考—張耒の閑居をめぐる—,三重大学人文学部文化学科『人文論叢』,41,2024,pp.11-26

東英寿、周必大の家蔵作品の題跋について,中国文学論集,53,2024,pp.58-72

萩原正樹、(書評)『中國・日本の詩と詞：『燕喜詞』研究と日本人の詩詞受容』,立命館アジア・日本研究學術年報,5,2024,pp.208-211

西岡淳、蘇軾詩注解補（六）,南山大学日本文化学科 論集,24,2024,pp.1-18

藤原祐子、向子諲とその詞の詞について—交友關係を中心に,風絮,21,2024

加納留美子、『宋高僧傳』『唐洛京慧林寺圓觀傳』訳注および考察,相模国文,52,2024,pp.46-69

三野豊浩、『全宋詩』所収の『千家詩』七言絶句—その淵源を探る—,日本宋代文學學會報,11,2024,pp.54-86

原田愛、蘇過與蘇軾文集の編纂,中外論壇,2023 年第 4 期,2024,pp.137-148

岑天翔、在地士人と「郷論」——楊万里の墓誌銘執筆について——,日本宋代文學學會報,11,2024,pp.27-53

岑天翔、南宋中後期古文評点產生与流行原因新探,漢学与國際中文教育,7,2024,pp.37-47

岑天翔、晚宋時期理学的向下伝播及思想変容——以科举參考書為中心的探討,朱子学研究,42,2024,pp.266-280

橘千早、姜夔の平韻「滿江紅」に関する諸問題について,風絮,21,2024,pp.116-147

浅見洋二、「箭鋒」——釈惠洪と蘇軾、黄庭堅、そして江西詩派の詩学をつらぬくもの,日本中国学会報,76,2024,pp.73-86

東英寿、久保山哲二、韓愈・柳宗元と宋六大家の文体の相違について—唐宋八大家古文比較考—,日本宋代文学学会報,11,2024,pp.1-26

西岡淳、蔡毅、中裕史、中純子、原田直枝、蘇軾詩注解（三十四）,アカデミア（文学・語学編）,115,2024,pp.1-36

- 西岡淳、蔡毅、中裕史、中純子、原田直枝、蘇軾詩注解（三十五）、アカデミア（文学・語学編）、116,2024,pp.1-32
- 麥慧君、夏麗麗著・原田愛訳、北米における直近二十年の宋代文學研究についての評述（上）、日本宋代文學學會報、11,2024,pp.87-111
- 上原究一、「義釈」続考——嚴顔は張飛に降りしや否や？、明清文学論集 その楽しさ その広がり、東方書店、2024,pp.3-30
- 高津孝、蘇軾の定州時代、令和2年度－令和6年度科学研究費補助事業（基盤研究（C））研究成果報告書「定州開元寺資史料の総合的研究」（研究代表者・山根直生・福岡大学人文学部教授）、福岡大学人文学部、2024,pp.136-164
- 加納留美子、轉生する僧侶——蘇軾「僧圓澤傳」考、日本宋代文學學會報、10,2023,pp.71-99
- 加納留美子、『甘澤謠』『圓觀』および蘇軾「僧圓澤傳」訳注、相模国文、51,2023,pp.167-189
- 松尾肇子、王昭君を詠じた十一～十三世紀の題畫詩、日本宋代文學學會報、10,2023,pp.1-27
- 西尾和子、物語要素としての圍碁——『太平廣記』を中心に——、和漢語文研究、21,2023,pp.62-76
- 浅見洋二、天のはからい——蘇軾と陸游を結ぶもの、日本宋代文学学会報、10,2023,pp.141-170
- 仲村康太郎、夢英「十八體篆書碑」書體論の構造と方法、中國文學報、97,2023,pp.32-66
- 東英寿、＜宋代書簡研究序説＞宋代書簡研究の可能性——歐陽脩書簡に着目して——、日本宋代文学学会報、10,2023
- 岑天翔、「縦筆」から見た宋代文人の作詩姿勢——陸游を中心に、日本宋代文学学会報、10,2023
- 岑天翔、宋人佚文《祭蘇東坡文》《上蘇東坡書》輯考、宋代文化研究、29,2023,pp.257-272
- 松尾肇子、第8章 北宋滅亡の混乱を生きた女性詩人：李清照、アジア人物史第4巻 文化の爛熟と武人の台頭、集英社、2023,pp.361-420
- 山本和義、西岡淳、南山読蘇会、蘇軾詩注解補（五）、南山大学日本文化学科 論集、23,2023,pp.63-78
- 山本和義、蔡毅、中裕史、中純子、原田直枝、西岡淳、蘇軾詩注解（三十二）、アカデミア（文学・語学編）、113,2023,pp.1-30
- 山本和義、蔡毅、中裕史、中純子、原田直枝、西岡淳、蘇軾詩注解（三十三）、アカデミア（文学・語学編）、114,2023,pp.1-31
- 東英寿、久保山哲二、王安石古文文体の実証的考察、東洋文化研究、25,2023,pp.172-194
- 船阪富美子、高橋忠彦編、陸游『齋居紀事』一文人生活の手引書に見る硯屏と喫茶法——浙江の茶文化を学際的に探る、汲古書院、2023,pp.225-267
- 明木茂夫、『詞源』巻上と『事林廣記』に見る八十四宮調圖——安倍季良『山鳥秘要抄』の「唐燕樂二十八調略圖」と「今傳來調子根元之事」をめぐって、日本宋代文學學會報、10,2023,pp.228-252
- 高西成介、『太平広記』訳注（稿）——巻四百一「宝」部金下（上）、高知県立大学紀要 文化学部編、72,2022,pp.19-30
- 東英寿、歐陽脩の書簡九十六編の発見による新知見——新発見書簡11と35をめぐって——、唐宋八大家研究、中国書店、2022,pp.210-218
- 東英寿、曾鞏の逆襲——唐宋八大家中存在感最弱の人？——、唐宋八大家研究、中国書店、2022,pp.227-236
- 東英寿、久保山哲二、唐宋八大家古文の計量分析的考察——序、記、論の虚詞分析——、唐宋八大家研究、中国書店、2022,pp.12-33
- 松尾肇子、李清照と趙家の姉妹、風絮、19,2022
- 須山哲治、『滄浪詩話』詩弁における「別材」範疇と「書」について、藝文研究、123-2,2022,pp.199-238

- 西尾和子,日本における『太平廣記』受容の展開—『太平廣記』の日本伝来時期を中心として,東方学,143,2022,pp.26-43
- 浅見洋二,父と子—蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐる,國學院中国學會報,68,2022,pp.1-24
- 浅見洋二,「士」と「農」、「勸農」と「躬耕」—陸游とその田園詩について,アジア遊学,277,2022,pp.155-170
- 湯浅陽子,「身世」と「掩關」—秦觀の閑居をめぐる—,三重大学人文学部文化学科『人文論叢』,39,2022,pp.1-15
- 藤原祐子,『楽府雅詞』初探,中国文史論叢,18,2022,pp.23-46
- 萩原正樹,「集曲名詞」考,風絮,19,2022,pp.91-115
- 萩原正樹,和刻本《事林廣記》中所見宋词—《全宋词》未收《迎仙客》詞六首,詞學,47,2022,pp.281-318
- 浅見洋二,陸游詩中の田園与国家:以《耕織図詩》及勸農文、諭俗文為線索,『五声十色:文図学視聽進行式』,文図学会,2022,pp.13-39
- 西岡淳、山本和義、南山読蘇会,蘇軾詩注解補(四),南山大学日本文化学科 論集,22,2022,pp.23-41
- 西岡淳、山本和義、蔡毅、中裕史、中純子、原田直枝,蘇軾詩注解(三十),アカデミア文学・語学編,111,2022,pp.1-28
- 西岡淳、山本和義、蔡毅、中裕史、中純子、原田直枝,蘇軾詩注解(三十一),アカデミア 文学・語学編,112,2022,pp.1-33
- 東英寿、平田茂樹、山口智哉、小林隆道、梅村尚樹他,歐陽脩書簡九十六篇の発見—新資料発見の経緯と九十六篇の特色,宋代とは何か,勉誠出版,2022,pp.141-153

■文学 06.金・元・明

【単行本】

- 小松謙,中国文学の歴史 元明清の白話文学,東方書店,2024,207pp.
- 小松謙,熱狂する明代 中国「四大奇書」の誕生,角川選書,2024,278pp.
- 小松謙,詳注全訳水滸伝第五卷,汲古書院,2024,259pp.
- 小松謙,ビギナーズクラシックス 水滸伝,角川ソフィア文庫,2023,303pp.
- 小松謙,詳注全訳水滸伝第四卷,汲古書院,2023,306pp.
- 堀誠,中国通俗小説故事論考 『平妖伝』とその周辺,研文出版,2023,350pp.
- 小松謙,詳注全訳水滸伝第三卷,汲古書院,2022,270pp.
- 小松謙,詳注全訳水滸伝第二卷,汲古書院,2022,252pp.
- 大木康,晩明風雅,香港城市大学出版社,2022,215pp.
- 林雅清、後藤裕也、田村彩子、陳駿千、西川芳樹,中国古典名劇選Ⅲ,東方書店,2022,428pp.

【論文】

- 薄井俊二,「徐霞客遊記」の地貌語彙試探—山峯篇—,中国文化,82,2024,pp.18-30
- 薄井俊二,「徐霞客遊記」の地貌語彙試探(その2)—水文語彙、他,埼玉大学国語教育論叢,27,2024,pp.32-53
- 伊藤晋太郎,怨霊と善神のはざま—『三国志演義』における関羽の「顕聖」—,二松学舎大学 東アジア学術総合研究所集刊,54,2024,pp.1-19
- 伊藤晋太郎,関羽の視覚的特徴の形成と受容,二松学舎大学人文論叢,113,2024,pp.65-81
- いしみのぞむ,驚愕の古琉球史,純心人文研究,30,2024,pp.134-160

- いしみのぞむ,鎌倉時代の尖閣航路から室町時代の波照間南洋大交易へ,島嶼研究ジャーナル(笹川財団),13(2),2024,pp.58-79
- いしみのぞむ,漢文琉球教材和訓,(長崎純心大學)教職課程センター 紀要,8,2024,pp.48-62
- 鮑功瀚,高叔嗣《苏门集》成书与版本考论,中国诗学,37,2024,pp.29-44
- 井口千雪,陳鐸の散曲に就いて(後篇),文学研究,121,2024,pp.49-76
- 井口千雪,明代武臣の文学活動、その背景,中国文学論集,53,2024
- 石川就彦,金聖嘆本『水滸伝』の評語に関する考察——「省」・「略」・「詳」について——,慶應義塾中国文学会報,8,2024,pp.57-81
- 李家橋,元雜劇「一折一韻到底」説についての再検討,早稲田大学大学院文学研究科紀要,第69輯,2024,pp.217-232
- 李家橋,元杂剧“折内换韵”现象考论,剧论,3,2024,pp.84-101
- 李家橋,日本江戸時代の中國戲曲受容研究綜論,国际汉学研究通讯,29,2024,pp.39-56
- 李家橋,元雜劇劇末に附する異韻曲についての考察-楔子・散場・打散との関係を中心に-,中国文学研究,50,2024
- 王一,明代における岑参集の出版活動について,和漢語文研究,22,2024,pp.86-112
- 野村鮎子,明の遺民と悼亡詩—もう一つの詩史,叙説,51,2024,pp.44-85
- YUMING HE(何予明)著・永富青地訳,家庭と世界:「皇明」を編集する——十六世紀と十七世紀の印本について——,中国—社会と文化,39,2024,pp.(1)-(22)
- 上原究一,「義釈」続考——嚴顔は張飛に降りしや否や?,明清文学論集 その楽しさ その広がり,東方書店,2024,pp.3-30
- 上原究一,人中の呂布と錦の馬超——『三国志演義』のイケメン枠,アジア遊学 295 蘇州版画——東アジア印刷芸術の革新と東西交流,勉誠出版,2024,pp.152-177
- 『明清文学論集』編集委員会編,『李卓吾先生批評忠義水滸伝』における評語「妙」に関する小考,明清文学論集 その楽しさ その広がり,東方書店,2024,pp.49-68
- 伊藤晋太郎,従使用手段看《三国演义》中諸葛亮的計謀,看歴史(三国文化),2023.04,2023,pp.34-38
- 松浦智子,明代内府の絵図本と視覚文化について—西遊記の彩色絵図本を中心に—,非文字資料研究,27,2023,pp.199-217
- 上原究一,明刊本小説『新刻彙正十八國鬪寶傳』の発見とその意義——伍子胥が主人公の「全相平話」が存在した可能性を視野に——,日本中国学会報,75,2023,pp.152-167
- 千賀由佳,明末通俗文学中の僧侶と杭州寺院:『三宝太監西洋記』を例に,中国俗文学研究,26,2023,pp.1-30
- 川島優子,凌濛初編『合評選詩』考(二),中国中世文学研究,76,2023,pp.178-198
- 大賀晶子,短篇白話小説の語り手介入文について—「三言二拍」における「説話的」の用法を中心に—,和漢語文研究,21,2023,pp.77-99
- 大木康,鹽谷温(1878-1962)的中国戲曲小説研究—兼及東京大学早期的中国文学科,中正漢学研究,41,2023,pp.1-24
- 二階堂善弘,『封神演義』の元帥神,東アジア文化交渉研究(関西大学東アジア文化研究科),16,2023,pp.169-180
- 尾崎勤,『封神演義』の改作について,日本中国学会報,75,2023,pp.137-151
- 尾崎勤,『封神演義』『堅瓠集』の清籟閣蔵板本と褚人穫,和漢語文研究,21,2023,pp.100-129

- 尾崎勤,『封神演義』 版本目録稿,京都府立大学学術報告(人文),75,2023,pp.211-253
- 野村鮎子,前近代中国における女性同性愛/女性情誼のエクリチュール,奈良女子大学文学部研究教育年報,19,2023,pp.9-23
- 李家橋,『西廂記』における【絡絲娘煞尾】についての考察,中国文学研究,49,2023,pp.47-63
- 林雅清,元雜劇における僧侶の形象 —「忍字記」劇と「東坡夢」劇の描写を例に一,京都文教大学こども教育学部研究紀要,3,2023,pp.87-101
- 廣瀬玲子,分身としての魂——「離魂記」から元雜劇「倩女離魂」へ,東洋文化研究所紀要,183,2023,pp.59-81
- 紺野達也,絵画における王維『輞川集』—元明の画論・画評を中心に,輞川図と蘭亭曲水図 イメージとテクストの交響,勉誠出版,2023,pp.3-23
- 大村和人,明代の西湖における「洛神賦」—袁宏道の「西湖」其一をめぐって—,大上正美先生傘寿記念三国志論集,汲古書院,2023,pp.255-280
- 明 紀振倫,邦訳『楊家将演義』—新編全像楊家府忠勇演義志傳 第一卷,樹間爽風,2,2023,pp.64-94
- 石井望,台湾全島の発見者、日本の琉球人だった、今こそ六百年史の正義、日台共同防衛を(談話),八重山日報,令和四年元旦版,2022,pp.34-35
- 石川就彦,金聖嘆本『水滸伝』の成立過程に関する試論——明代伝奇「元宵鬧」との関係について——,藝文研究,122,2022,pp.37-57
- 橘千早,宋金代における詞と語り物の相互作用について,風絮,19,2022,pp.116-167
- 伊藤晋太郎,日本高校《三国》文化教学実践探索——以日本二松学舎大学為例,内江師範学院学報,37(3),2022,pp.13-16
- 小塚由博,明代の金剛經靈驗說話の変遷に関する一考察—『皇明金剛新異録』と『歷朝金剛經持驗紀』の比較を通じて—,蓮華寺佛教研究所紀要,15,2022,pp.33-85
- 石川就彦,『水滸伝』の描く「笑い」,慶應義塾中国文学会報,6,2022,pp.47-69
- 石川就彦,金聖嘆本『水滸伝』の評語に関する考察——「註」及び「補」について——,藝文研究,123-2,2022,pp.148-167
- 川島優子,明代文選関連書籍考,中国学研究論集,40,2022,pp.14-31
- 中塚亮,台湾人作家としての安能務と,その編訳『封神演義』の特徴について,金城学院大学論集.人文科学編,19(1),2022,pp.183-194
- 堀誠,『平妖伝』四十回本における妖狐の形象—「妖術」と聞香教—,学術研究(人文科学・社会科学編),70,2022,pp.21-32
- 野村鮎子,前近代中国における女性同性愛/女性情誼のエクリチュール,奈良女子大学文学部研究教育年報,19,2023,pp.9-23
- 野村鮎子,明清における妾婢をめぐる士大夫の心性—亡妾哀悼文を中心に—,歴史学研究,1017,2022,pp.1-13
- 有澤晶子,屠隆『曇花記』の表現と三教意識,文学論藻,96,2022,pp.1-28
- 李家橋,『王国维书信日记』所收戏曲相关信札五则的日期考订,中華戲曲,64,2022
- 李家橋,『録鬼簿』における散曲・雜劇作家著録考—戲曲史的位置づけからの再検討—,早稲田大学大学院文学研究科紀要,67,2022,pp.837-848
- 李家橋,『太和正音譜』所収の元雜劇テキストについての考察,日本中国学会報,74,2022,pp.77-91
- 廣瀬玲子,龍女の変容——「柳毅伝」から元雜劇「柳毅伝書」へ,東洋文化研究所紀要,181,2022,pp.63-88

伊藤晋太郎,『三国志演義』を研究する,入門 中国学の方法,勉誠出版,2022,pp.99-112

山下一夫,明清时期三清形象的转变与发展——以《西游记》等小说之插图为例,《西游记》新论集,广西师范大学出版社,2022,pp.271-308

大木康,明代中国における文化の大衆化,岩波講座 世界歴史 12,岩波書店,2022,pp.163-179

■文学 07.清

【単行本】

小松謙,中国文学の歴史 元明清の白話文学,東方書店,2024,207pp.

小塚由博、小川陽一、荒井礼、今井秀和、田中良明,『虞初新志』訳注 卷一～卷三,大東文化大学東洋研究所,2022,314pp.

【論文】

大木康,「詩の力」雑考—中国前近代の場合—,中国 社会と文化,39,2024,pp.46-59

大木康,書評 岡本隆司著『物語 江南の歴史』,中国研究月報,78(9),2024,pp.25-26

大木康,物語と蘇州版画,アジア遊学 蘇州版画,295,2024,pp.118-130

大木康,明清女性史研究の一里程標『張家の才女たち』評,Web 東方,202410,2024

吉田薫,梁啓超の書(杉村楚人冠記念館蔵)と康有為の汗漫舫—詩境からたぐる変法への情—,日本女子大学文学部紀要,73,2024,pp.55-67

紺野達也,趙殿成『王右丞集箋注』編纂をめぐって,中國文學研究,50,2024,pp.115-135

野村鮎子,明の遺民と悼亡詩—もう一つの詩史,叙説,51,2024,pp.44-85

關名著・福田知可志訳,玉歴鈔伝嘉慶十七年凌周文序刊本訳注(十),颯風,63,2024,pp.80-88

上原究一,「義釈」続考——嚴顔は張飛に降りしや否や?,明清文学論集 その楽しさ その広がり,東方書店,2024,pp.3-30

上原究一,人中の呂布と錦の馬超——『三国志演義』のイケメン枠,アジア遊学 295 蘇州版画——東アジア印刷芸術の革新と東西交流,勉誠出版,2024,pp.152-177

大木康,繆荃孫『京本通俗小説』成立の背景とその製作過程,明清文学論集,東方書店,2024,pp.209-233

船越達志,『紅樓夢』後四十回における賈政像考,明清文学論集 その楽しさ その広がり,東方書店,2024,pp.169-187

高西成介,聊齋志異画皮小考,明清文学論集 その楽しさその広がり,東方書店,2024,pp.149-167

松浦智子,蘇州版画と楊家将—物語と祈りの絵図,蘇州版画 東アジア印刷芸術の革新と東西交流,勉誠社,2024,pp.178-193

いしみのぞむ,和訓摘録指南廣義,(長崎純心大學)教職課程センター紀要,7,2023,pp.75-90

永井もゆ,『隋唐演義』・『混唐』・『征西』の関係性について,和漢語文研究,21,2023,pp.130-147

松浦智子,田村容子著『男旦(おんながた)とモダンガール——二〇世紀中国における京劇の現代化』をめぐる書評シンポジウム報告—通俗古典文学と「変化と連続性」の視点から,研究集録,2022 年度号,2023,pp.49-60

石井望,340 年前、台湾西南部侵攻、そのとき尖閣は、琉球指南広義針路で清国論破、近代国際認識の起源ここにあり,八重山日報,令和 5 年元旦版,2023,pp.20-21

大平桂一,憂廬集(第三十一段～第五十一段),言語と文化,22,2023,pp.67-88

大平桂一,『列朝詩集小傳』に見られる「文人」の諸相,美術フォーラム 21,48,2023,pp.16-23

永田知之,十九世紀中国の知識人が見た章学誠とその言説——史論家・思想家への道,中国学の近代的展

開と日中交渉,勉誠社,2023,pp.20-32

松浦智子,関于岳飛“文芸”在日本演變的初步調査,東亜漢籍与漢文学論集 初編,商務印書館,2023,pp.399-424

中林史朗、田中良明、米田颯介、大兼健寛、栗栖亜矢子,陔餘叢考訓譯、卷十六之中,大東文化大学漢学会誌,62,2023,pp.169-231

大平桂一訳,憂庵集(第三十一段～第五十一段)訳注,言語と文化,22,2023,pp.67-88

金博男,秒針如何转动——从晚清科学小说看中国人对时间的全新认知,長江學術,73,2022,pp.37-49

山下一夫,台湾皮影戲『高良徳』考,藝文研究,123,2022,pp.59-78

小塚由博,錢肅潤編『文瀾』について,大東文化大學『漢學會誌』,61,2022,pp.1-35

船越達志,『紅樓夢』後四十回における「黛玉勸学」考,名古屋外国語大学論集,10,2022,pp.321-344

大木康,姜埰の顕彰活動 『姜貞毅先生輓章』をめぐって,斯文,137,2022,pp.37-51

大木康,清初文人姜実節の生涯とその文学藝術,東洋文化研究所紀要,180,2022,pp.1-63

野村鮎子,前近代中国における女性同性愛/女性情誼のエクリチュール,奈良女子大学文学部研究教育年報,19,2022,pp.1-15

野村鮎子,明清における妾婢をめぐる士大夫の心性—亡妾哀悼文を中心に—,歴史学研究,1017,2022,pp.1-13

李家橋,『王国维书信日记』所收戏曲相关信札五则の日期考訂,中华戏曲,64,2022,pp.204-217

陳捷、吳孟晋,森琴石ゆかりの中国書画および書簡資料について—来船清人との交流を中心に—,学叢(京都国立博物館),44,2022,pp.79-109

戴名世著・大平桂一訳,憂庵集(第九段～第三十段),言語と文化,21,2022,pp.49-72

■文学 08.近現代

【単行本】

菅野智明,中国書学と近代知,汲古書院,2024,700pp.

晏妮、邵迎建、星野幸代,二戰前後的中日身體表現藝術——影像・戲劇・舞蹈・音樂・漫畫,秀威資訊,2024,275pp.

長堀祐造,魯迅のデスマスクを取った歯科医・奥田杏花(愛三)の人物像,周氏兄弟研究会,2024

茅盾著・呂雷寧、中井政喜訳,茅盾回想録上巻,名古屋外国語大学出版会,2024,577pp.

茅盾著・呂雷寧、中井政喜訳,茅盾回想録下巻,名古屋外国語大学出版会,2024,526pp.

河本美紀,張愛玲の映画史—上海・香港から米国・台湾・シンガポール・日本まで,関西学院大学出版会,2023,602pp.

永田知之、陶徳民、吾妻重二,中国学の近代的展開と日中交渉,勉誠社,2023,329pp.

星野幸代、大塚英志,労働と身体の大衆文化,水声社,2023,316pp.

閻連科著・桑島道夫訳,四書,岩波書店,2023,362pp.

松村茂樹,現代中国語圏映画研究—第五世代と第六世代,「Otsuma eBook」大妻女子大学人間生活文化研究所,2022,80pp.

星野幸代,翼賛体制下のモダンダンス 厚生舞踊と「皇軍」慰問,汲古書院,2022,286pp.

張文菁,通俗小説からみる文学史——1950年代台湾の反共と恋愛,法政大学出版局,2022,279pp.

秋吉收、郜元宝編,本味何由知—《野草》研索新集,復旦大学出版社,2022,620pp.

武田雅哉、加部勇一郎、田村容子,中国文学をつまみ食い—『詩経』から『三体』まで—,ミネルヴァ書

房,2022,266pp.

【論文】

- 中井政喜,ペ・エス・コーガン教授についてのノート(上),名古屋外国語大学論集,14,2024,pp.203-234
- 中井政喜,ペ・エス・コーガン教授についてのノート(下),名古屋外国語大学論集,15,2024,pp.117-152
- 星野幸代,文革期の踊る身体と性: 嚴歌苓「白蛇」「芳華」論,現代中国,98,2024,pp.21-35
- 瀬戸宏,曹禺『雷雨』侍萍の人物形象について,摂南国際研究,2,2024,pp.73-82
- 瀬戸宏,新編『曹禺全集』について,中国文芸研究会会報,567,2024,pp.8-10
- 瀬戸宏,曹禺は“そうぐう”か“そうぐ”か,中国文芸研究会会報,508・509,2024,pp.15-16
- 菅野智明,銭玄同における「写経体」の形成とその背景,中国文化,82,2024,pp.57-68
- 吉田薫,「糸魚川」が紡いだ周氏兄弟との縁 一相馬御風の『野を歩む者』、周作人からの便り、魯迅の「道」一,日本女子大学大学院文学研究科紀要,30,2024,pp.33-43
- 櫻庭ゆみ子,中国現代小説の楽しみ方ー楊絳『洗澡』再読ー,慶応義塾大学日吉紀要 人文科学,39,2024,pp.1-41
- 賈海涛,版改訂による「叙言分離体」の浮上: 上海作家・夏商『東岸紀事』の方言修正を中心に,人文研究,213,2024,pp.99-127
- 鈴木将久,増田涉魯迅訳介の学術史意義,南国学術,14(3),2024,pp.412-424
- 秋吉收,魯迅、周作人兄弟与日本现代文坛的接触 一以《现代日本小说集》、芥川龙之介、江马修、《罗马字小说集》等为线索,海南師範大学学报(社会科学版),37(4),2024,pp.27-37
- 伊東貴之,老北京(ラオ・ベイジン)の記憶と傷痕——老舎における満洲人性と普遍性／書評『私のこの生涯ー老舎中短編小説集』(関根謙・杉野元子・松倉梨恵訳、平凡社),図書新聞,3656,2024
- 伊東貴之,台湾海峡、波高し——中国語圏文学の翻訳・中国研究は堅調に推移【2024年・年末回顧／中国文学・文化】,図書新聞,3668,2024
- 王俊文,飯倉照平眼里的竹内好,魯迅研究月刊,12,2024,pp.73-88
- 王俊文,人与鬼的纠葛: 论电影《鬼子来了》的内外,言語と文化,36,2024,pp.177-191
- 蓋曉星,日本における中国映画『鬼が来た!』の受容,言語と文化,36,2024,pp.63-90
- 蓋曉星,中国映画における「故郷」と「異郷」: 賈樟柯と彼の映画を中心に,文教大学文学部紀要,Jan-38,2024,pp.97-127
- 中里見敬、顧偉良、李麗君,周作人・豊一父子と濱一衛・ふみ夫妻の書簡往来,言語文化論究,52,2024,pp.155-174
- 楊絳著・櫻庭ゆみ子訳,楊絳の散文その4ー「啓明で学ぶ」その2ー,慶応義塾大学日吉紀要 中国研究,17,2024,pp.41-71
- 蘇曼殊著・日野杉匡大訳,蘇曼殊「天涯紅淚記」訳注,火輪,45,2024,pp.2-18
- 葉朗著・河内利治、山田沙奈、李源、丁子戊、陳雪柯、章楚弦、孫儒、沐屹蕾、万恬甜、龐博訳,中国美学史大綱、第二十三章、梁啓超の美学、第四節～第六節訳注,書道学論集,21,2024,pp.15-24
- 瀬戸宏,曹禺『雷雨』序幕・尾声の劇中意義ーあわせて『雷雨』のキリスト教色彩について,20世紀中国史の資料的復元,京都大学人文科学研究所,2024,pp.481-498
- 瀬戸宏,『精神不死: 馬來西亞華文話劇口述歴史(第一輯)』序,精神不死: 馬來西亞華文話劇口述歴史(第一輯),心向太陽劇坊,2024,pp.46-49
- 瀬戸宏,商務印書館版《吟辺燕語》の文化意義-再論林紓の莎士比亞觀,商務印書館与中国現代文化的興起--商務印書館創業120年国際学術研討会論文集,商務印書館,2024,pp.764-772

- 栗山千香子、上原かおり、他、作家ファイル：王小波、嚴歌苓、楊絳、中国語現代文学案内、ひつじ書房、2024、pp.32-33,70-71,200-201
- 赤松美和子、台湾ホラー映画における母性のアブジェクション ——ジェンダー平等へのバックラッシュ、REPRE、48、2023
- 賈海涛、『繁花』初稿の誕生：「弄堂網」と投稿の前期段階を中心に、野草、111、2023、pp.168-194
- 賈海涛、上海文学における「蘇北叙述」論：文化論的言説の再構築として、言語社会、17、2023、pp.96-113
- 陳竹、1920年代の中国文壇における谷崎文学の位置付け：穆儒丐訳「金と銀」を手掛かりに、比較文化研究、153、2023、pp.283-297
- 陳竹、1920年代の北京文壇における谷崎潤一郎文学の受容：「玄奘三蔵」中国語訳とその翻訳背景、比較文化研究、151、2023、pp.141-157
- 陳竹、谷崎潤一郎「人面疽」と近代中国ホラー映画「深夜の歌声」の比較研究、比較文化研究、150、2023、pp.117-131
- 王俊文、「純粋な信仰」：丸山昏迷の思想と大正民主主義、東京大学中国語中国文学研究室紀要、26、2023、pp.35-51
- 王俊文、丸山昏迷的“北京”：丸山昏迷的生平及其笔下的北京、周氏兄弟研究、1、2023、pp.175-190
- 王俊文、『信念』——日本戦後民間中文教育視野中の藤堂明保、上海文化交流発展報告、2023、2023、pp.144-159
- 蓋曉星、钟孟宏の“台北物語”：简析《停车》和《瀑布》、Walpurgis：國學院大學外国語文化学科紀要、2023、2023、pp.(91)-(105)
- 楊絳著・櫻庭ゆみ子訳、楊絳の散文その3ー「忘れられない一日」と「啓明で学ぶ」ー、慶応義塾大学日吉紀要 中国研究、16、2023、pp.83-110
- 楊絳著・櫻庭ゆみ子訳、楊絳の語り 散文七編、慶応義塾大学日吉紀要 人文科学、38、2023、pp.1-33
- 長堀祐造、秋吉收著・陳竹訳、制作魯迅“石膏面模”的牙科医生奥田杏花（愛三）の人物像ー奥田杏花之子奥田昇夫婦訪問記、魯迅研究月刊、12、2023、pp.35-44
- 阿部沙織、凌叔華「中華儿女」の日本人表象を再考するー松岡洋右との交流を参照軸として、野草、111、2023、pp.97-125
- 伊藤徳也、魯迅は「私の失恋」をなぜ『野草』に編入したのか、周氏兄弟研究、1、2023、pp.127-148
- 伊藤徳也、国民革命の中の「フェアプレー」論議ー「生活の芸術」としての「フェアプレー」、周作人研究通信、14、2023、pp.52-63
- 伊藤徳也、魯迅と失恋詩、九葉読詩会、8、2023、pp.107-122
- 稲森雅子、清華大学教授錢稻孫の重建懷徳堂訪問記念写真について、懷徳、91、2023、pp.48-64
- 稲森雅子、単士釐の鎌倉暮らしと日本人女性との交流：朝日、池田信子、中国文学論集、52、2023、pp.141-158
- 稲森雅子、書評 大里浩秋・孫安石編著 東方書店『明治から昭和の中国人日本留学の諸相』（神奈川大学人文学研究叢書 46）、中国研究月報、77（5）、2023、pp.29-32
- 黄詩琦、吳宓と「文」の新理想ーその言語・文體觀と二〇世紀初期歐米の言語文化ー、日本中国学会報、75、2023
- 松村志乃、知識青年がことばを綴ること ——ふたつの「孩子王」を再考する、日本中国当代文学研究会会報、37、2023、pp.1-12
- 杉村安幾子、楊振声「荒島上的故事」における自死する少女、日本女子大学文学部紀要、72、2023、pp.55-66

- 瀬戸宏,曹禺『雷雨』繁漪はなぜ家出しなかったか,未名,40・41 合併号,2023,pp.1-17
- 瀬戸宏,曹禺『雷雨』のテキスト変遷について,摂南国際研究,1,2023,pp.65-78
- 瀬戸宏,曹禺『雷雨』周樸園の形象について,都市文化研究,25,2023,pp.32-40
- 瀬戸宏,郭沫若『王昭君』について,郭沫若研究会会報,29,2023,pp.26-28
- 鄭洲,不徹底な女たち——廬隱『象牙戒指』が描く「灰城」北京,日本中国学会,75,2023,pp.213-226
- 白井重範,茅盾と「マルクスの社会主義」——アナトール・フランス評価、および『共産党』月刊との関連から,國學院雑誌,124(11),2023,pp.77-92
- 楊文溢,沈從文文学における空間表現——「雪」と『雪晴』作品群を通して,野草,111,2023,pp.71-97
- 鈴木将久,近二十年日本の中国现代文学研究,现代中文学刊,83,2023,pp.25-32
- 濱田麻矢,民国だめんず・うお〜か〜——白薇の東京体験——,神戸大学文学部紀要,50,2023,pp.1-25
- Yukiyo Hoshino,Dancers in the Japanese 'Imon-dan (visiting troupe to comfort)' traveling to the front line between Burma and China.,Inter-Asia in Motion.,Routledge.,2023
- 瀬戸宏,『満洲国』の演劇,戦時下の演劇 国策劇・外地・収容所,森話社,2023,pp.155-174
- 瀬戸宏,试论王大化:联系国立剧专和延安鲁艺的艺术家,戏剧摇篮:国立剧专迁驻江安八十周年纪念论文集,万卷出版,2023,pp.243-253
- 田村容子,「椿姫」を演じた男たち 中国演劇における「新派的」想像力の行方,新派映画の系譜学:クロスメディアとしての〈新派〉,森話社,2023,pp.290-314
- 鈴木将久,日本占領下上海文化の「グレーゾーン」をどう考えるか〔増補版〕,グレーゾーンと帝国 歴史修正主義を乗り越える生の営み,勉誠出版,2023,pp.99-129
- 鈴木将久,陶晶孫と田村俊子、そして『女声』,日中戦時下の中国語雑誌『女声』—フェミニスト田村俊子を中心に,春風社,2023,pp.257-273
- 稲森雅子、静永健,目加田誠『北京旅行日記（一九三六年）』翻刻注（終）：十一月二十一日～十二月二十四日 付楠本正継宛書翰・書斎対聯,文學研究,120,2023,pp.1-56
- 中里見敬、李莉薇,再论日本学者对中国戏剧表演史研究的开拓：以滨一卫的观剧记为中心,戏曲艺术,44(1),2023,pp.92-101
- 星野幸代著、龔月婷訳,上海少女歌舞表演商業的盛行和衰退——「被観看的」性與身体表現,中国的娛樂與性別—女性之「変」,台湾大学出版中心,2023,pp.113-130
- 秋吉收,魯迅『野草』の掲載誌『語絲』について—「愛知県立大学」所蔵“原本”の発見,周氏兄弟研究,1,2023,pp.149-174
- 長堀祐造、秋吉收,制作魯迅“石膏面模”的牙科医生奥田杏花（愛三）的人物像——奥田杏花之子奥田昇夫婦訪問記,魯迅研究月刊,2023(12),2023,pp.35-44
- 秋吉收,魯迅、周作人兄弟による日本文学の翻訳について——『現代日本小説集』（上海商務印書館、一九二三年）に注目して,アジア遊学 286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本,勉誠社,2023,pp.85-102
- 賈海涛,方言文学における「叙言分離体」：五四時期の文学言語の変容に関する議論を中心に,中国：社会と文化,37,2022,pp.149-165
- 陳竹,谷崎潤一郎「人面疽」の出典に関する一考察:原話の表象との関連性を手掛かりにして,比較文化研究,148,2022,pp.109-122
- 陳竹,谷崎潤一郎「麒麟」の中国語翻訳について—中華民国時期(1912～1949 年)を中心に,近代文学論集,47,2022,pp.18-32

王俊文,日本戦後大学中文教育草創期浅窺——以東大教養学部首位中文専任講師工藤篁為中心,上海文化交流発展報告,2022,2022,pp.126-143

楊絳著・櫻庭ゆみ子訳,楊絳の散文四編,慶応義塾大学日吉紀要 中国研究,15,2022,pp.49-71

楊顯惠著・田村容子訳,李祥年のラブストーリー——楊顯惠『夾辺溝記事』抄訳,饗餐,30,2023,pp.192-226

HOSHINO Yukiyo,Dancers in the Japanese 'Imon-dan (visiting troupe to comfort)' traveling to the front line between Burma and China,Inter-Asia Cultural Studies, 23 (4),2022,pp.599-610

伊藤徳也,北京のタゴールと徐志摩、林徽因—魯迅「私の失恋」の背景を探る,周作人研究通信,13,2022,pp.1-17

稲森雅子,単士釐一家と下田歌子との交流,中国文学論集,51,2022,pp.95-112

稲森雅子,1930 年前後の日中学術交流 : 民国北京の大学人と日本人留学生,學術の動向 ,27 (8),2022,pp.15-18

河本美紀,張愛玲による映畫脚本「香閨争覇戦」の發見,日本中國學會報,74,2022

吉田薫,梁啓超(飲冰)と莊子が辿った「人間世」素描—変法、新民、開明専制を経て—,日本女子大学文学部紀要,71,2022,pp.23-49

秋吉收,「散文詩人・徐玉諾と魯迅『野草』」再論 —文学上の交流、エロシエンコそしてカール・ヨネダ(米田剛三),言語科学(九州大学言語文化研究院),57,2022,pp.35-54

秋吉收,魯迅与日本大正文壇—以佐藤春夫為線索,紹興文理学院學報,42(11),2022,pp.1-10

松村茂樹,長尾雨山が上海で開催した「古書画展覽雅集」について,人間生活文化研究,32,2022

松村茂樹,六三園での長尾雨山帰国送別会招待者名簿について,大妻女子大学紀要-文系-,54,2022

松村茂樹,研究ノート:ボストン美術館蔵吳昌碩「与古為徒」扁額真跡の出現をめぐって,中国文化,80,2022,pp.14~24

杉村安幾子,徐訐「幻覺」試論——無名氏作品との関わりで見る感傷に浸る男たち・葬り去られる女たち——,日本女子大学文学部紀要,71,2022,pp.95-106

菅野智明,沈子善と中国書学研究会 —書の学会を生み出すもの—,書学書道史研究,32,2022,pp.85-98

瀬戸宏,曹禺の老舍論,老舍研究会会報,35,2022,pp.10-12

瀬戸宏,曹禺『雷雨』魯大海の形象について,東方学,143,2022,pp.44-60

瀬戸宏,セクシーと上昇志向——四鳳人物メモ(二),中国文芸研究会会報,486,2022,pp.1-3

瀬戸宏,四鳳とレギーネ——四鳳人物メモ(三),中国文芸研究会会報,488,2022,pp.4-5

瀬戸宏,曹禺『雷雨』の恋愛観,中国研究月報,897,2022,pp.18-29

瀬戸宏,曹禺『雷雨』四鳳の乳房描写について,中国文芸研究会会報,484・485 合併号,2022,pp.1-3

星野幸代,石井漠舞團在「滿洲」的巡廻演出,台日法政研究,7,2022,pp.1-26

中井政喜,後期における魯迅の民衆像に関するノート(中),名古屋外国語大学論集,10,2022,pp.249-261

中井政喜,後期における魯迅の民衆像に関するノート(下),名古屋外国語大学論集,11,2022,pp.127-152

中里見敬,《春水》校勘記:手稿与主要版本之异同(上),言語文化論究,48,2022,pp.160-141(1-20)

中里見敬,《春水》校勘記:手稿与主要版本之异同(下),九州大学附属図書館研究開発室年報,2021/2022,2022,pp.88-52(1-37)

鈴木将久,瞿秋白接受马克思主义信仰的思想脉络—从《饿乡纪程》到《赤都心史》,长江学术,2022(3),2022,pp.68-78

龔月婷,母と娘の葛藤 —蘇雪林『棘心』を中心に—,名古屋大学人文学フォーラム,5,2022,pp.1-17

鈴木将久,革命文学論争における彭康,東アジアにおける哲学の生成と発展:間文化の視点から,法政大学

出版局,2022,pp.344-361

稲森雅子、静永健、目加田誠『北京旅行日記（一九三六年）』翻刻注（二）：十一月二～二十日,文學研究,119,2022,pp.1-43

瀧本弘之 戦暁梅 編,長尾雨山の近代日中美術交流における貢献,アジア遊学 269 近代中国美術の境界,勉誠出版,2022,pp.61-71

楊絳著・櫻庭ゆみ子訳,楊絳の散文四篇,慶応義塾大学日吉紀要 中国研究,15,2022,pp.49-71

葉朗著・河内利治監訳,『中国美学史大綱』第二十四章 王国維の美学 第五・六・七・八節訳注,書道学論集,19,2022,pp.(1)-(12)

■文学 09.民間文学・習俗

【単行本】

鄭振鐸著・高津孝、柳川順子、松家裕子、三木夏華、小松謙、藤田優子、大木康、輪田直子、後藤裕也、岩田和子訳,中国俗文学史,東方書店,2023,880pp.

呉修喆,燈謎：漢字文化圏文字遊戲の諸相,文学通信,2023,296pp.

【論文】

李杰玲,日本アイヌ民族と海南島黎族の起源神話についての比較研究,燕山論叢,（2024 年下半年卷）第五輯,2024,pp.78-91

楊瑞、李杰玲,日本漢詩における崑崙のイメージ及びその文化についての研究,漢学研究,2024 年秋冬巻第 37 集,2024,pp.377-390

上田望,江蘇・浙江省の古典芸能空間,東洋学報,104(4),2023,pp.345-347

大木康,曾永義先生的俗文学研究与我,中国文哲研究通訊,33(2),2023,pp.47-51

貝塚典子,呪具としての箒に関する一考察,中国詩文論叢,40,2022,pp.139-163

山下一夫,台湾皮影戲における潮州語,中国都市芸能研究,20,2022,pp.5-27

■文学 10.日本漢文学

【単行本】

松村茂樹,長尾雨山研究,研文出版,2024,376pp.

堀川貴司,五山文学探究 資料と論考,文学通信,2024,392pp.

下田章平,清末民初書画碑帖収蔵研究,知泉書館,2023,522pp.

松尾肇子 靳春雨訳,雅詞的受容：中日文人對宋詞的期望,萬卷樓圖書,2023,262pp.

増子和男,松月亭寄題詩・松月亭寄題詩文訳注,茨城新聞社,2023,200pp.

村山敬三,藍澤南城の学問と教育,汲古書院,2023,608pp.

直井文子,日本漢文学の江戸後期一知識人の自己表現一,汲古書院,2023

二宮俊博,津阪東陽『杜律詳解』全釈,二宮印刷工房,2023,1063pp.

堀川貴司,詩のかたち・詩のころ 中世日本漢文学研究【補訂版】,文学通信,2023,448pp.

柳澤良一,本朝麗藻詳注,勉誠社,2023,928pp.

蔡毅,清代における日本漢文学の受容,汲古書院,2022,398pp.

高田宗平編著,日本漢籍受容史一日本文化の基層一,八木書店出版部,2022,698pp.+口絵 16pp.

【論文】

稲森雅子,劉文典による日中学術交流 — 重建懷德堂訪問と『莊子補正』 —,中国文学論

集,53,2024,pp.134-151

詹滿江,大沼枕山と新選組——近藤勇辞世の漢詩添削と土方歳三を詠じた詩——,近世文藝 研究と評論,106,2024,pp.295-300

宋哈,文人という人間類型の射程,和漢比較文学,73,2024,pp.4-16

劉欣佳,中井竹山『詩律兆』考: その歴史的意義を中心に,日本中國學會報,76,2024,pp.232-245

萩原正樹,【資料紹介】漢詩文雑誌「別天地」について—附・「別天地」収録井伏素老詩,立命館白川靜記念東洋文字文化研究所紀要,17,2024,pp.35-53

安原大熙,茉莉園詩派における茉莉花と『茉莉花』詩について—森春濤・森槐南とその周辺—,日本中國學會報,76,2024

大村和人,横川唐陽「四國遍路詞」について,言語文化研究,32,2024,pp.1-34

副島一郎,徂徠の手品—徳富蘇峰の荻生徂徠評をめぐって,GR—同志社大学グローバル地域文化学会紀要,21・22(合併号),2024,pp.109-140

副島一郎,徂徠の手品—徳富蘇峰の荻生徂徠評をめぐって,GR—同志社大学グローバル地域文化学会紀要,21・22(合併号),2024,pp.109-140

多田伊織,吉野 仙境とその周辺,万葉古代学研究年報,22,2024,pp.196(19)-185(28)

原田愛,秋聲堂主人詩解: 明治二十八年の徳田秋聲の漢詩,金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要,16,2024,pp.202-216

堀川貴司,五山文学における水仙のイメージ,国語と国文学,101(3),2024,pp.91-102

堀川貴司,五島美術館蔵 重要文化財『賦譜・文筆要訣』 影印と解題,かがみ,54,2024,pp.1-20

飯塚大展、佐藤俊晃、比留間健一、堀川貴司,『江湖風月集略註』研究(十七),駒澤大學禅研究所年報,36,2024,pp.1-60

堀川貴司,五山文学における廢墟の表象,廢墟の文化史(アジア遊学 297),勉誠社,2024,pp.231-241

堀川貴司,祇園南海作新井白石六十寿賀詩について,古典文学研究の対象と方法,花鳥社,2024,pp.665-682

紺野達也,蔡大鼎の離別詩について,琉球历史与东亚世界——第 17 届中琉历史关系国际学术会议论文集,中国评论学术出版社,2024,pp.213-229

紺野達也,关于蔡大鼎的尺牘——以蔡大鼎和福州人士之间交流为中心——,守礼之邦: 中琉关系与亚洲文明——第 16 届中琉历史关系国际学术会议论文集,中国评论学术出版社,2024,pp.144-166

蔡毅,聶景孺『桜花館日本詩話』考論,轉換期の東アジアにおける文化交流と漢学,汲古書院,2024,pp.57-83

紺野達也,蔡大鼎の漢詩文における「科」と「科挙」,海邦養秀 第 18 届中琉歴史關係國際學術會議論文集,中琉文化經濟協會,2023,pp.153-172

桐島薫子,幕末・明治期における中国故事受容の一側面(1) —『蒙求』注釈本の「帝王世系」を中心に—,筑紫女学園大学研究紀要,18,2023,pp.1-19

松尾肇子,陽明文庫蔵 新井白石「楼名」をめぐって,東海学園大学 言語・文学・文化,終刊号,2023,pp.47-59

松尾肇子,石川鴻斎の詩餘,風絮,20,2023

蔣義喬,嵯峨朝の梵門詩と中唐初期の江南詩壇,成城国文学,39,2023,pp.15-33

石井真美子,佐藤碧海の詩と生涯(下)——三河の漢詩人(一),学林,76,2023,pp.155-206

大村和人,中川劍岳の「鳴門峽二首」をめぐって: 作品の発表の経緯と日中詩史における位置,言語文化研究,31,2023,pp.1-55

大平桂一,『北越雪譜』山東京山による序文の訳注と考察,人文学論集,41,2023,pp.45-64

- 大木康,鹽谷温(1878-1962)の中國戲曲小説研究—兼及東京大學早期的中國文學科,中正漢學研究,41,2023,pp.1-24
- 大木康,先儒祭墓前講話 鹽谷温博士の中國戲曲小説研究,斯文,138,2023,pp.112-120
- 谷口孝介,和漢比較文學會シンポジウム「訓読という行為—解釈・翻訳として—」趣旨説明,和漢比較文學,71,2023,pp.1-5
- 池田昌広,明治期における『随園食單』の受容について——木原章六「随園食單註記」と陽其二『家庭支那料理法』,京都産業大學日本文化研究所紀要,28,2023,pp.1-28
- 池田昌広,玉里文庫所蔵太平天国印書と五代友厚,京都産業大學日本文化研究所紀要,28,2023,pp.29-44
- 陳竺慧,友野霞舟の現存詞作について,風絮,20,2023,pp.1-27
- 土佐朋子,「幸用せん李陵の弓」—肖奈行文の覚悟—,早稲田大學日本古典籍研究所年報,16,2023,pp.1-24
- 萩原正樹,森山東陽の詞と『筆錦詞藻』,風絮,20,2023,pp.97-125
- 堀川貴司,慶應義塾所在近世文人書簡筆跡類總覧(五) 三田メディアセンター貴重書室(その四),斯道文庫論集,57,2023,pp.501-520
- 堀川貴司(編),『与唐金興隆諸家手翰』翻刻と解題,近世文藝研究と評論,105,2023,pp.1-11
- 柳川順子,宮島における平賀周蔵の交遊と詩作,宮島学センター年報,6,2023,pp.5-14
- 蔡毅,中國文人が見た日本漢詩—田桐『扶桑詩話』について—,東アジア比較文化研究,22,2023,pp.45-59
- 河野貴美子,『仙源抄』の注釈方法——漢字をあてる注を中心に,平安文學の饗宴(中野幸一編),勉誠社,2023,pp.439-464
- 大野圭介,帝亡びて風雅在り——近代富山の漢詩人・岡崎藍田が見た中國——,富山大學人文学部叢書VI 人文知のカレイドスコープ,桂書房,2023,pp.64-79
- 谷口孝介,本のかたち、本を分類する,筑波大學附屬圖書館常設展 古典籍のインターフェース,筑波大學附屬圖書館,2023,pp.1-8,13,21-27
- 萩原正樹,近藤南州の手記「詩餘」,日中韓詞學論文集 花間集から近藤元粹まで,立命館大學アジア・日本研究所,2023,pp.1-16
- 堀川貴司,後陽成天皇時代の漢詩文—英甫永雄を例に—,後陽成天皇,宮帯出版社,2023,pp.376-396
- 堀川貴司、飯塚大展、佐藤俊晃、比留間健一,『江湖風月集略註』研究(十六),駒澤大學禪研究所年報,35,2023,pp.1-74
- 船阪富美子、高橋忠彦編,解題『梅山種茶譜略』『青湾茶話』『清風瑣言』『茶痕醉言(抄)』『泡茶新書三種』『木石居煎茶訣』,茶書古典集成1 江戸後期の茶書と煎茶の書,淡交社,2023
- 大平桂一訳,『北越雪譜』山東京山による序文の訳注と考察,人文学論集,41,2023,pp.45-64
- 明木茂夫,豊田市中央圖書館所蔵の拳母藩主内藤家旧蔵書について——その受領の際の記録をめぐって,中京大學圖書館學紀要,43,2023,pp.1-30
- 河野貴美子,中國古代典籍の流傳・重組・變異——以空海《秘密漫茶羅教付法傳》爲中心,國際漢學研究通訊,23・24,2022,pp.31-49
- 原信太郎アレシャンドレ,山田方谷「係雪故事」詩再考,高梁方谷會報,44,2022,pp.23-29
- 高山大毅,「石鏡」=鏡山詠の展開: 徂徠學派の定型表現,雅俗,21,2022,pp.83-97
- 紺野達也,蔡大鼎『漏刻樓集』序譯注稿,神戸外大論叢,75(2),2022,pp.103-133
- 石井真美子,佐藤碧海の詩と生涯(上)——三河の漢詩人(一),學林,75,2022,pp.462-509
- 増子和男,『松月亭寄題詩』と『松月亭寄題詩文』について,中國詩文論叢,40,2022,pp.189-194
- 大村和人,森春濤の「阿波風土詩」をめぐって,言語文化研究,30,2022,pp.1-55

- 谷口孝介,ふたつの「古典」,人文科教育研究,49,2022,pp.113-116
- 池田昌広,『袖中抄』と類書,京都産業大学日本文化研究所紀要,27,2022,pp.1-19
- 池田昌広,『往生要集外典抄』出典考——『文選』の利用を中心に,京都産業大学論集 人文科学系列,55,2022,pp.288-276
- 池田昌広,袖中抄と大観本草,和漢比較文学,68,2022,pp.58-72
- 竹村則行,『翰苑』及び『遊仙窟』の中国散佚と日本伝存の背景,中国文学論集,51,2022,pp.76-94
- 土屋聡,熊阪台州の文章論から見た『含錫紀事』について,岡山大学国語研究,36,2022,pp.1-14
- 土佐朋子,『懷風藻』葛野王伝の論理と意図—「皇太后」に奪われた皇位—,早稲田大学日本古典籍研究所年報,15,2022,pp.1-20
- 任萌萌,頼三樹三郎漢詩訳註(1),比較日本文化学研究,15,2022,pp.65-89
- 萩原正樹,森槐南の詞學—『作詩法講話』に見える詞の起源説,立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要,15,2022,pp.51-63
- 布村浩一,「管仲随馬」の享受史—「成長」する故事,東洋研究,225,2022,pp.1-26
- 堀誠,中野逍遥詩篇考—「病」「渴」「癡」の心象—,早稲田大学大学院教育学研究科紀要,32,2022,pp.1-15
- 堀川貴司,足利学校と五山,史跡足利学校研究紀要 学校,20,2022,pp.19-39
- 堀川貴司,紅葉山文庫旧蔵『續新編分類諸家詩集』について—『新選集』『新編集』研究その七一,斯道文庫論集,56,2022,pp.35-53
- 堀川貴司,斯道文庫所在林羅山自筆書簡筆跡類について,藝文研究,123(2),2022,pp.1-17
- 末木恭彦,山崎闇齋「仲秋主静齋即興」詩に就いて—揖斐高『江戸漢詩選』割記—,文化,40,2022,pp.1-13
- 木村淳,『和漢文類』の漢詩教材,中国文化,80,2022,pp.94-103
- 船阪富美子,湯川玄洋の七石亭煎茶会—井上正三筆『柳湖堂煎茶会記』より—,茶の湯文化学,35,2022,pp.21-44
- 河野貴美子,日本伝存資料を通してみる唐代典籍文化の統一性と多様性,渡邊義浩編 中国文化の統一性と多様性,汲古書院,2022,pp.387-417
- 河野貴美子,『日本霊異記』の表現と内部連関からみるその主張,鉄野昌弘・奥村和美編 萬葉集研究,塙書房,2022,pp.239-285
- 河野貴美子,平安漢文学からみた唐物—文具を中心として—,河添房江・皆川雅樹編【アジア遊学 275】「唐物」とは何か 舶載品をめぐる文化形成と交流,勉誠社,2022,pp.183-195
- 仙石知子,日本における劉向『列女傳』の受容—松本萬年『標註劉向列女傳』を中心に,中国文化の統一性と多様性,汲古書院,2022,pp.229-246
- 谷口孝介,17 世文化人ネットワークのあかし—「歴聖大儒像の価値」—,令和四年度筑波大学附属図書館特別展図録「孔子をまつる—歴聖大儒像の世界—」,筑波大学附属図書館,2022,pp.6-7
- 陳竺慧,畫家與儒者: 淺析題畫詞在江戸時代的出現與發展,五聲十色: 文圖學視聽進行式,新加坡: 文圖學會,2022,pp.41-52
- 堀川貴司,唐物としての書と書物—無学祖元を例に,「唐物」とは何か 舶載品をめぐる文化形成と交流,勉誠出版,2022,pp.245-255
- 飯塚大展、佐藤俊晃、比留間健一,『江湖風月集略註』研究(一五),駒澤大学禅研究所年報,33,2022,pp.1-55
- 堀川貴司、山田尚子,古今和歌序 影印と翻刻,斯道文庫論集,56,2022,pp.55-131
- 明木茂夫,豊田中央図書館貴重書所蔵の江戸期楽書,豊田中央図書館の江戸期学芸書—雅楽資料『山

鳥秘要抄』とその周辺,汲古書院,2022,pp.3-41

明木茂夫,豊田中央図書館蔵安倍季良『律呂』(山鳥秘要抄) 翻刻校注,豊田中央図書館の江戸期学芸書 一雅楽資料『山鳥秘要抄』とその周辺,汲古書院,2022,pp.167-335

■文学 11.比較文学

【単行本】

蕭涵珍,異域之華——〈牡丹燈記〉與江戸文藝,台北:學生書局,2022,202pp.

【論文】

瀬戸宏,新作能《麦克白》译介,影劇新作,201,2024,pp.109-112

呉修喆,『背紐』に見る和製成句謎をめぐって,言語文化論究,52,2024,pp.1-16

呉修喆,江戸文人が見た漢字文義謎:近世随筆による記録と伝承,言語科学,59,2024,pp.53-66

陳竹,張君川訳谷崎潤一郎西湖の月について:底本並びに原作からの改変と削除問題,近代文学論集,49,2024,pp.1-17

瀬戸宏,商務印書館版《吟辺燕語》的文化意義--再論林紓の莎士比亚観,商務印書館与中国現代文化的興起,商務印書館,2024,pp.764-772

宇野瑞木,東アジアの輪廻転生譚と〈シルシ〉——ベトナム漢文説話を中心に,東アジア的世界分析の方法——〈術数文化〉の可能性,文学通信,2024

宇野瑞木,雲に乗る織女の誕生——董永説話の織女イメージの変容をめぐって,古典文学研究の対象と方法,花鳥社,2024

井上浩一,『画本西遊全伝』に到る西遊記簡略化の過程について,明清文学論集 その楽しさその広がり,東方書店,2024,pp.433-450

増子和男,団扇を持った神々落語「死神」の一バリエーションから—,中国詩文論叢,42,2023,pp.210-225

高戸聰,再生する樹木の説話,福岡女学院大学紀要 人文学部編,33,2023,pp.13-30

三野豊浩,新美南吉の童話「手袋を買ひに」の中国語版《小狐狸买手套》について—日本語原文と中国語訳の比較—,愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化,48,2023,pp.85-107

三野豊浩,新美南吉の童話「手袋を買ひに」の中国語版《小狐狸买手套》について——日本語原文と中国語訳の比較——,愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化,48,2023,pp.85-107

辜知愚,久保天随の中国「女流文学」史観——謝无量と梁乙真の女性文学史からの受容,叙説,50,2023,pp.73-93

井上浩一,中島孤島訳『(新譯)西遊記』初探,中國學研究論集,40,2022,pp.128-113

宇野瑞木,孝の説話表象の伝播とその展開——前近代の東アジアの視座から,日本文学文化,21,2022,pp.1-14

宇野瑞木,『嶺南摭怪』にみる北ベトナム山岳信仰と中華世界——「傘円山伝」の語りを中心に,説話文学研究,57,2022,pp.38-44

宇野瑞木,「二十四孝図——元覚図の「棄老」と「諫め」をめぐって,アジア遊学 儒教思想と絵画——東アジアの勸戒画,271,2022

吉永壮介,現代日本の「三国志」受容における「合理性」とキャラクターの再構築について—吉川英治・柴田錬三郎・陳舜臣・三好徹・北方謙三・宮城谷昌光の描く陳宮像—,藝文研究,123(2),2022,pp.79-97

瀬戸宏,柳敏榮『韓国演劇運動史』を読む-中国演劇研究の立場から-,摂大人文学,29,2022,pp.1-12

堀誠,夜半亭随記,アジア・文化・歴史,13,2022,pp.1-13

堀誠,中島敦「悟浄出世」札記,中国詩文論叢,40,2022,pp.241-255

蕭涵珍,笠亭仙果《柳風花白波》論析：兼及與明清文藝的關連,清華中文學報,28,2022,pp.289-323

詹滿江,卵色とは何色か？——漢詩に見る色彩表現,ことばと文字,15,2022,pp.180-191

永田知之,詩歌に伴う書簡—『万葉集』と唐代前期までの詩の贈答を通して—,萬葉集研究 第四十一集,塙書房,2022,pp.197-237

■文学 12.書誌

【単行本】

【論文】

宇野瑞木,徳田和夫氏蔵『孝行録附・孝抄』の影印・翻刻・解題,『専修国文』,114,2024,pp.1-62

表野和江,鶴見大学図書館蔵・銅活字本『白氏長慶集』 解題,国文鶴見,58,2024,pp.117-126

堀川貴司,斯道文庫受贈佐藤一郎旧蔵書目録,慶應義塾中国文学会報,8,2024,pp.107-130

紺野達也,趙殿成『王右丞集箋注』編纂をめぐって,中國文學研究,50,2024,pp.115-135

渡邊登紀,『四部叢刊』出版事情と『鮑氏集』(中)一統・四部叢刊本『鮑氏集』について—,中国語中国文化,21,2024,pp.218-231

高津孝,五代の出版,アジア遊学,291,2023,pp.156-164

渡邊登紀,『四部叢刊』出版事情と『鮑氏集』(上)一統・四部叢刊本『鮑氏集』について—,中国語中国文化,20,2023,pp.110-131

カパッソ ダニエル,昌平坂学問所の蔵書形成史に関する一考察(「再購本」の全体像を中心に),慶應義塾中国文学会報,7,2023,pp.142-114

高津孝,琉球の漢学—見られた琉球の文化という視点から—,日本漢学受容史—日本文化の基層—,八木書店,2022,pp.587-612

カパッソ ダニエル,昌平坂学問所の蔵書形成史に関する一考察(「恩賜官本」、「焼失本」、「再購本」を中心に),慶應義塾中国文学会報,6,2022,pp.108-78

河野貴美子,早稲田大学図書館所蔵 富岡鉄斎旧蔵明刊『釈氏源流』について,早稲田大学図書館紀要,69,2022,pp.1-31

池田昌広,卷子から冊子へ—馮道の九經刊行の意義,汲古,81,2022,pp.20-25

土佐朋子,山本読書室蔵『懷風藻』写本の性格—「杏菴堀先生真筆」の真偽をめぐって—,近世京都,5,2022,pp.1-22

陳捷,江戸中後期好古家による古典籍装訂・装具研究について,日本漢籍受容史—日本文化の基層—,八木書店出版部,2022,pp.415-445

■文学 13.その他

【単行本】

堀誠(鄒波訳),日本語文教科書里的中国,華東理工大学出版社,2023,183pp.

明木茂夫,オタク的翻訳論 日本漫画の中国語訳に見る翻訳の面白さ 卷十九(兄の嫁と暮らしています),自費出版,2022,32pp.

松村茂樹、岡崎真紀子、土方洋一、前田雅之,古典探究〔文部科学省検定済教科書高等学校国語科用〕,文英堂,2022,463pp.

明木茂夫、遠藤徹、山田淳平、中川豊,豊田市中心図書館の江戸期学芸書 —雅楽資料『山鳥秘要抄』

とその周辺一,汲古書院,2022,346pp.

【論文】

稲森雅子,今はいくさの服もぬぎ——目加田誠とその「ブンガク」研究,アジア遊学,299,2024,pp.150-163

平塚順良,訳注大越史記全書(6) 属西漢紀・徴女王紀・属東漢紀・土王紀,経済科学研究,27(2),2024,pp.53-75

平塚順良,訳注大越史記全書(7) 属呉晋宋齐梁紀,経済科学研究,28(1),2024,pp.13-37

河内利治,蘭亭・北京・合肥・天津・杭州——国際書法展の作品と「凝神」,大東書道研究,31,2024,pp.10-14

李杰玲,日本所蔵泰山府君祭都状概説及びその価値についての分析,泰山学院学報,第46巻第2期,2024,pp.1-7

李杰玲,日本所蔵鑑真渡航に関する資料における黎族に関する記録及びその研究,周口師範学院学報,2024年第6期,2024,pp.74-79

李杰玲,日本所蔵蘇軾和陶詩文献整理及びその研究,東坡文化研究,2024年第1期,2024,pp.123-136

李杰玲,中国語ニュース聴力課程のデジタル化教学資料の開発について,海南師範大学学報,2024年第4期,2024,pp.84-91

宮崎洋一,中学校・高等学校の国語の教科書に掲載された漢文の教材一覧(その3),文教国文学,68,2024,pp.82(9)-61(30)

野村鮎子,岡田英樹先生を悼んで——「君は何のために研究す」,野草,113,2024,pp.67-69

静永健、稲森雅子、目加田誠『中国旅行日記(一九四二年)』翻刻注(上)——十月十六日～二十七日,文学研究,121,2024,pp.1-48

増尾伸一郎著・李杰玲訳,「<天曹地府祭>成立考:『今昔物語集』を起点として」,国際比較文学,2024年第3期,2024

荒木浩著・李杰玲訳,身をなげる/子を投げる——孝と捨身の投企性を巡って,国際比較文学,2024年第3期,2024

木場貴俊著・李杰玲訳,可視化する日本史——絵入年代記を素材に——,国際比較文学,2024年第3期,2024

出口智之著・李杰玲訳,一葉小説の口絵と挿絵——作者一葉との関わりから,国際比較文学,2024年第3期,2024

梅崎昌裕著・李杰玲訳,環境と人間の生活の通時的関わり——中国海南島の事例より,国際比較文学,2024年第3期,2024

石上阿希著・李杰玲訳,『訓蒙図彙』諸版再考,国際比較文学,2024年第3期,2024

須永敬著・李杰玲訳,東アジアの<聖母>信仰と山の道教——碧霞元君・沙蘇・大比留女——,国際比較文学,2024年第3期,2024

王鐸著・高津孝、大野紘暉訳,王鐸書論訳注(二),鹿大史学,71,2024,pp.40-72

王鐸著・高津孝、大野紘暉訳,王鐸書論訳注(一),鹿大史学,70,2023,pp.40-72

小嶋明紀子,高校生に対する漢詩実作指導について,漢文教室,209,2023,pp.4-8

大木康,香港石塘咀花街雑考,東洋文化研究所紀要,182,2023,pp.237-266

田村祐之,『水滸傳語録文法文解』紹介——朝鮮時代の『水滸伝』愛読者の著作,国際言語文化論集,4,2023,pp.31-48

尾川明穂、董其昌『画禅室随筆』の成立に関する一考察,書学書道史研究,33,2023,pp.41-54

平塚順良,『大越史記全書』と綱目体,経済科学研究,27(1),2023,pp.1-11

- 平塚順良訳,訳注大越史記全書(4) 鴻臚氏紀・蜀紀,経済科学研究,26(2),2023,pp.73-93
- 平塚順良訳,訳注大越史記全書(5) 趙紀,経済科学研究,27(1),2023,pp.95-127
- 王俊文,まぼろしの日常性,新世紀人文学論究,6,2022,pp.335-340
- 河内利治,跂跂翾翾,大東書道研究,29,2022,pp.16-19
- 河野貴美子,北京人文科学研究所における蔵書形成と中國古典學,日本中國學會報,74,2022,pp.205-220
- 上田望,金沢大学におけるアジア研究の組織と現状,東方學會報,122,2022,pp.27-29
- 赤松美和子,台湾 LGBTQ 映画における子どもをめぐるポリティクス,日本台湾学会報,24,2022,pp.34-55
- 陳捷,ベトナム使節阮輝儻の漢詩『餞日本使回程』の釈読について,東洋文化研究所紀要,181(2021-2),2022,pp.188(179)-161(206)
- 土屋聡,日中古典教育における関連教材の比較,新しい漢字漢文教育,73,2022,pp.86-97
- 土屋聡,空想する「桃花源記—「桃花源詩」とともに読むことの意義—,岡山大学大学院教育学研究科研究集録,179,2022,pp.67-74
- 萩原正樹,浦川源吾編『支那歴代純文學選』について—唐宋詞收録の講讀用教科書と立命館大學—,學林,75,2022,pp.510-541
- 明木茂夫,呂律早操旋宮図 —明治期の声明の調子早見表について—,中京大学図書館学紀要,42,2022,pp.56-66
- 市來津由彦,返り点を付ける,入門 中国学の方法,勉誠出版,2022,pp.219-244
- 平塚順良訳,訳注大越史記全書(2) 卷首,経済科学研究,25(2),2022,pp.73-91
- 平塚順良訳,訳注大越史記全書(3) 越鑑通考総論,経済科学研究,26(1),2022,pp.85-112

■語学 01.総記

【単行本】

【論文】

木津祐子,「官話」再読,中国語学,269,2022,pp.14-34

■語学 02.音韻

【単行本】

【論文】

いしみのぞむ,尖閣島名の淵源(下)補説,純心人文研究,29,2023,pp.210-236

いしみのぞむ,程順則指南廣義島名の音義,人間文化研究,21,2023,pp.75-90

白田真佐子,段玉裁「古十七部諧声表」と江沅『説文釈例・釈音例』,言語と文化(愛知大学語学教育研究室),47,2023,pp.87-105

いしみのぞむ,古琉球史を書き換へる,純心人文研究,28,2022,pp.213-240

蔣垂東,『麤幼略記』所記唐音の声類について(中古音分紐表),言語と文化,33,2022,pp.45-72

竹越孝,《兼滿漢語滿洲套話清文啓蒙》の滿漢對音——兼論清代滿漢對音の幾個側面,“譯音對勘”的材料與方法,黃山書社,2022,pp.332-342

■語学 03.文字

【単行本】

【論文】

菅野智明, 銭玄同における「写経体」の形成とその背景, 中国文化, 82, 2024, pp.57-68

大西克也, 熊野の牛玉宝印と中国の鳥書, 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要 文化交流研究, 37, 2024, pp.1-22

大西克也, 漢字の呪力, 新釈漢文大系 補遺編 季報, 3, 2024, pp.1-2

大西克也, 漢字学の名著この一冊 裘錫圭著『文字学概要（修訂本）』, 学会通信 漢字之窓, 6(1), 2024, pp.44-45

金子眞也, 台湾における言語使用状況とローマ字使用の諸相, 龍谷紀要, 45(2), 2024, pp.47-57

片倉俊平、大西克也, 古漢字テキストデータを援用した郭店楚簡の用字重複調査, じんもんこん 2024 論文集, 一般社団法人情報処理学会, 2024, pp.187-194

仲村康太郎, 曹仁虎『転注古義考』と毘沙門堂蔵『篆隸文体』, 漢字文化研究, 13, 2023, pp.79-113

大西克也、片倉峻平、大向一輝、永崎研宣, 複数の解讀情報を並存させた中國出土資料のテキストデータ化とその展望, 中國出土資料研究, 27, 2023, pp.51-64

■語学 04.訓詁・訓点・漢学

【単行本】

金義成、李強主編, 小児推拿伝世古本集成, 湖南科学技術出版社, 2023

【論文】

■語学 05.文法・語彙（古代）

【単行本】

【論文】

市原靖久, 上古中国語「夫」再考—発語の辞をめぐって, 中国語学, 271, 2024, pp.81-100

大西克也, 上古中国語のモダリティ助詞「矣」について, 日本中国学会報, 75, 2023, pp.272-257

大西克也, 上古漢語被動句及其中的世界觀——以動力表達為線索, 繼承傳統 博古通今——紀念郭錫良先生九十華誕學術文集, 商務印書館, 2023, pp.173-188

■語学 06.文法・語彙（近世）

【単行本】

竹越孝, 五卷本『庸言知旨』校注（神戸市外国語大学研究叢書 65）, 神戸市外国語大学, 2022, 446pp.

【論文】

竹越孝, “俺”は山西話, “恁”は官話——從《老乞大》的修訂看人稱代詞複數的單數化, 清華語言学, 5, 2024, pp.73-91

蔣垂東, 『袖海編』所記の日本語をめぐって—日中語彙交渉史の視点から—, 言語文化研究科紀要, 第 9 号, 2023, pp.27-56

竹越孝, 『清文指要』『續編兼漢清文指要』の成書過程—版面の差異と語彙の偏在から—, 神戸外大論叢, 76, 2023, pp.137-165

岩本真理, 語彙研究の方向性, 中国言語文化学研究, 11, 2022, pp.21-34

竹越孝, 語彙交替と文法形式—飲食動詞の変遷を例として—, 岩田礼教授栄休紀念論文集（地理言語学研究モノグラフシリーズ 2）, 日本地理言語学会, 2022, 上 pp.342-359

木津祐子,「把」字句から見る長崎唐通事資料,《岩田礼教授荣休纪念论文集》上册,日本地理言語学会,2022,pp.196-207

■語学 07.文法・語彙（現代）

【単行本】

村松恵子,中国語教師のための基礎講座,白帝社,2023,369pp.

【論文】

伊藤加奈子,“V 过 O 来(去)”における“过”の役割とは何か?,信州大学人文科学論集,10(2),2023,pp.21-37

伊藤加奈子,“楼”は「建物」か、「アパート」か?一場所表現についての日中対照一,信州大学人文科学論集,9(2),2022,pp.89-119

佐々木勲人,東南方言における事象叙述と主題化—“把”構文と主題文をめぐって—,現代中国語研究,24,2022,pp.30-39

佐々木勲人,非情の受身と間接受身,汉日语言对比研究论丛,12,2022,pp.3-15

町田茂,现代汉语“曾[经]+动+了 1”“曾[经]+动+过 2”的语法语用差异,山梨大学教育学部紀要,32,2022,pp.63-74

内藤正子,Stream of Consciousness in Chinese Linguistics,早稲田大学大学院文学研究科紀要,67,2022

田中祐輔,どうぞよろしく。一語から始める小さな日本語学,ひつじ書房,2022

■語学 08.方言

【単行本】

【論文】

樋口勇夫,J-POP 広東語カバー曲における声調の楽音への影響(11),名古屋学院大学論集一言語・文化篇一,34(1),2023

秋谷裕幸,原始閩語中の舌叶塞音声母及其相關問題,語言学論叢,2022(1),2022,pp.58-86

秋谷裕幸,広東中山市隆都方言の歴史音韻特点及其帰属,声韻論叢,28,2022,pp.1-28

秋谷裕幸,原始閩東区方言的*yai 韻及其相關問題,中国語学,269,2022,pp.76-92

秋谷裕幸,也談閩北区方言中文讀音的来源,中国方言学報,9,2022,pp.36-47

秋谷裕幸,闽北区方言的筭义词,中国语文,2022(1),2022,pp.89-95

秋谷裕幸,閩東区方言的{男陰}義詞及其相關的詞語,方言比較与吳語史研究——石汝傑教授荣休紀念論文集,中西書局,2022,pp.294-313

木津祐子,「把」字句から見る長崎唐通事資料,岩田礼教授荣休纪念论文集,日本言語地理学会,2022,pp.196-207

秋谷裕幸、野原将揮,閩語中来自*m.r-和*ng.r-的来母字,辞書研究,2022(2),2022,pp.1-23

陳澤平,《戚林八音》“遮同奇”初探,方言,2022(2),2022,pp.137-142

■語学 09.言語接触・翻訳など

【単行本】

竹越孝、斯欽巴図,『一百条』系諸本総合対照テキスト(IV)第76話～第100話,好文出版,2024,417pp.

竹越孝、斯欽巴図,『一百条』系諸本総合対照テキスト(III)第51話～第75話,好文出版,2024,411pp.

竹越孝、斯欽巴図,『一百条』系諸本総合対照テキスト(II),好文出版,2023,478pp.

【論文】

- 湯城吉信,中国語学術書を日本語へ翻訳する場合の問題 上・中・下 ,WEB 東方,コラム,2023
- 陳捷,ベトナム使節阮輝瑩の漢詩『餞日本使回程』の釈読について,東洋文化研究所紀要,第 181 冊 (2021 年度第 2 期) ,2022,pp.188 (179) -161 (206)
- 田村祐之,『水滸傳語録文法文解』紹介一朝鮮時代の『水滸伝』愛読者の著作,姫路獨協大学国際文化論集,4,2022,pp.31-48
- 竹越孝,従“満漢兼”子弟書看清代初期の語言接触,方言比較与吳語史研究:石汝傑教授栄休紀念論文集,中西書局,2022,pp.31-45

■語学 10.語彙・辞書

【単行本】

【論文】

- 白石將人,『説文解字』解釈における段玉裁の複拳字説と錢大昕の連読説 ,日本中国学会報,76,2024,pp.145-160

■語学 11.教育

【単行本】

- 鱒澤彰夫,中國語教育史の新研究,好文出版,2024,314pp.、31pp.、14pp.、図版 10pp.
- 村松恵子,中国語教師のための基礎講座,白帝社,2023,368pp.
- 浜田ゆみ、青野英美(著)、布川雅英(監修),改訂版 中国語 中級の一步手前,駿河台出版社,2023,67pp.
- 鈴木基子、関口勝,わかりやすい中国語 2023 年度版(中国語テキストです),駿河台出版社,2023,202pp.
- 山下一夫、境一三、吉川龍生、縣由衣子,外国語教育を変えるために,三修社,2022,186pp.
- 田中祐輔,川端祐一郎,牛窪隆太,陳秀茵,張玥,庵功雄,前田直子,日本語で考えたい科学の問い-心と身体篇-,凡人社,2022
- 田中祐輔,陳秀茵,牛窪隆太,森篤嗣,小西円,張玥,《書き込み式》表現するための語彙文法練習ノート〈下〉,凡人社,2022

【論文】

- 鈴木基子,研究ノート アメリカのイェール大学における中国語教育の觀察,現代中国,98,2024,pp.133-145
- 杜軼文,初習中国語再履修クラスの授業展開について,青山スタンダード論集,19,2024,pp.49-66
- 中里見敬,東亜同文書院の伝統的中国語教授法「念書」とその戦後における継承,中国研究論叢,22,2023,pp.73-93
- 杜軼文,ポストコロナの対面中国語授業設計に関する考察,青山スタンダード論集,18,2023,pp.27-39
- 杜軼文,第二外国語としての中国語教育におけるオンライン授業の実践報告,青山スタンダード論集,17,2022,pp.3-12 c
- Yusuke Tanaka,The Training of Japanese Language Teachers in China Undertaken by Japanese Local Governments: A Focus on the Chinese Trainees Invitation Project of the Kanagawa Prefectural Board of Education,The Bulletin of the Institute of Human Sciences, Toyo University,24,2022,pp.33-50
- 田中祐輔,神奈川県教育委員会による中国研修生招聘事業-日本の地方自治体が取り組んだ中国の日本語教師養成-,ことばと文字,14,2022,pp.191-200

田中祐輔,デジタル歴史学と日本語教育の歴史-映像アーカイブ-『日本語教育 100 年史』事業を中心に-,日本語教育史研究,1,2022,pp.38-46

山下一夫、吉川龍生,多様な”中国語”を受容可能にする授業へードイツの大学における中国語教育の事例から,慶應義塾外国語教育研究,18,2022,pp.19-39

田中祐輔、川端祐一郎,『日本語教育』掲載論文の引用ネットワーク分析ー日本語教育研究コミュニティの輪郭描写ー,日本語教育,178,2022,pp.79-93

■語学 12.訳註類

【単行本】

【論文】

田村祐之,敦煌故事賦「燕子賦」訳注(1)ーツバメ夫婦、スズメ一家に新居を乗っ取られるー,姫路獨協大学国際文化論集,5,2024,pp.49-63

湯城吉信,中国語学術書を日本語へ翻訳する場合の問題 上・中・下,WEB 東方,コラム,2023

竹越孝、杉山豊,東国大学校所蔵乙亥字本『老朴集覧』について,朝鮮学報,262,2023,pp.155-187

■語学 13.その他

【単行本】

【論文】

田村祐之,『水滸傳語録文法文解』紹介ー朝鮮時代の『水滸伝』愛読者の著作,国際言語文化論集,4,2023,pp.31-48